

君よ輝け

灘教会 仁科 早苗



このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。

マタイ5・16

私は「聖書に基づいたいのちと性の教育」の講演を行うことがあります。その時に「私たちは生まれる時、神様が『あなたが受け取った人生は輝いているんだよ。たくさん楽しんでおいで』と送り出してくださったんだよ。」とのフレーズを使います。これは、聖書に基づいたいのちと性の教育の師であり、予期せぬ妊娠に悩む女性のために「小さないのちのドア」を神戸市で開設した永原郁子姉の言葉を做ったものです。いのちは創造主からのプレゼントでわたしたちは人生を輝かせて楽しんでいいんだという自己肯定感を高めるための導入です。

さて、「信仰継承は難しい」とつぶやいている大人みなさん。あるいはCS教師のみなさん。あなた

の人生は輝いていますか？ 人生を楽しんでいますか？ 神様が「いっぱい人生を楽しんでね」と送りだしてくださったのにその神様の声は届いていますか？ みなさんの背中をCSの生徒は見えています。怒りに満ちていたり、しかめっ面だったり、そんな教師たち親たちの姿を敏感に受け取っているのは次世代を受けつく若者やごどもです。信仰を持ってもあんなに苦しいなら、やめておこう。イエス様は好きだけど、教会は辛くて重荷の多いところならやめよう。となってしまうのではないだろうか。一九九五年教団の青年全国大会のテーマソング「君よ輝け」の歌詞に「神様の光をいっぱいを受けて」との歌詞がありますが、神様の光を受けるにはわたしたちは立ち止まり反射鏡の点検が重要です。傷つき歪んでいれば、鏡は屈折し反射する光量はグンと下がるのです。

「信仰生活は楽しい」「教会に喜びが満ちている」と救われたばかりの初心を思い出してみませんか？ 大人や教師の笑顔が溢れる場所にごどもたちは安心して居場所を見出します。あなたの人生も輝きを取り戻すことでしょう。あなた自身の癒しがリバイバルとなり、ごどもたちの信仰継承に一番大切なポイントとなると心をこめてエールを送ります。

牧羊者

目次

巻頭言	1
目次	2
教師養成講座「新約聖書丸ごと早わかり(1)」	3
新年 \blacktriangle 1 / 1 \blacktriangledown	15
新しい生き方 \blacktriangle 1 / 8 \blacktriangledown 1 / 29 \blacktriangledown	21
捕囚期 \blacktriangle 2 / 5 \blacktriangledown 2 / 26 \blacktriangledown	45
キリストの十字架への道 \blacktriangle 3 / 5 \blacktriangledown 3 / 26 \blacktriangledown	69
牧羊ひろば(長崎めぐみ教会)	93
カリキュラム	97
「牧羊者」のご購読・ご利用について	98
おわりに	98

〔凡例〕

1. 原語について：ギリシヤ語は(ギ)、ヘブル語は(ヘ)、アラム語は(ア)で表記しています。
2. 礼拝メッセージ例の最後の「さんび」の略記について
 こ：「こどもさんびか」、こ改：「こどもさんびか改訂版」(以上、日本キリスト教
 団出版局)、ホ：「教会学校・日曜学校 子どもさんびか」(日本ホーリネス教団出
 版局)、イン：「教会学校さんびか」(インマヌエル教会学校部)、ふ：「ふくいん子
 どもさんびか」、GS：「ふくいんこどもさんびか2 グローイング・ソング」(以
 上、日本児童福音伝道協会)、PW：「ブレイズワールド」(リビングブレイズ)

新約聖書丸ごと早わかり(1)

工藤 弘雄



はじめて

「なぜ、山に登るのですか。」「そこに山があるからだ。」聖書の登山！ つきない魅力です。登山は、まず、山の全貌ぜんぼうを見ることから始まります。新約聖書には27の山並みやまなみがそびえ立っています。まずはその全貌を見て、その一つ一つの山に挑戦します。「新約聖書丸ごと早わかり」の学びは、新約聖書を概観する学びです。新約聖書書のそれぞれのテーマ、記者、書かれた時期や場所、その特徴、内容などを大づかみする学びです。聖書の著者は神様ご自身ですので、ここでは記者とということにします。

旧約聖書には、モーセ五書を含めて膨大な「歴史書」があります。続いて、ヨブ記、詩篇、箴言、雅歌などの「詩歌」と呼ばれる「文学書」があります。最後に、イザヤ書以下の「預言

書」が来ます。ですから、旧約聖書の三大区分は、歴史書と文学書と預言書ということになります。

新約聖書も同じように、四つの福音書と使徒の働きを「歴史書」、パウロの手紙などを「文学書」、そしてヨハネの黙示録を「預言書」と見れば、やはり、歴史書、文学書、預言書の区分になります。

「新約聖書丸ごと早わかり」、まずは、四福音書と使徒の働きの「歴史書」から見ることにしましょう。

福音書を理解する

四人の福音書記者、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネが申し合わせをせず、見たとおり、知ったとおり、ありのままに同じことをそれぞれの視点で自分のことばで記します。マタイ、マ

ルコ、ルカの福音書は共観福音書とされています。共観とは「共に見る、総合的に見る」との意味。ヨハネ福音書では、共観福音書が主としてキリストの行動を描いているのに対し、キリストの講話、会話と祈りが主に述べられています。

なぜ四つの福音書があるのでしょうか。それは、一つや二つの福音書では、キリストの生涯を描くことはできません。福音書においては、キリストの四つの顕著な職務が描かれています。エゼキエルは、四つの生きものの形をした幻を見ました。前方に人の顔、右と左に獅子の顔と牛の顔、後方に鷲の顔をもった生きものです。獅子は支配する王、牛は労働する僕、人は慰めの人の子、鷲は天がける神の子をあらわします。キリストは、マタイにおいては王、マルコにおいては僕、ルカにおいては人の子、ヨハネにおいては神の子として示されています。

マタイ福音書を理解する

1 記者マタイ

12使徒のひとり。別名をレビ。マタイは主イエスによって与えられた名前。その意味は「神様の賜物」。マタイ自身、本

名のレビを使用せずこの名前を大切にします。かつては罪人呼ばわりされていた取税人。弟子団の中では会計係が適役だったでしょうが、実際は書記役。彼により主イエスの説教が克明に記されています。

2 書かれた時と場所

エルサレム陥落は紀元70年。主イエスはこのことを預言されているのでそれ以前に書かれたことは確かです。50〜60年ごろに書かれたでしょう。場所はパレスチナのどこかです。

3 主題

「王なる救い主（メシア）の活動」。

4 ここが特色、ここも見たい

①他の福音書では「神の国」。マタイは「天の御国」という表現。しかも33回も。これは「神の国」を意味するユダヤ的表現です。

②「これらのことばを語り終えられると…」という5大説教とそれに続く活動の記述パターン。王なるイエスの「ことばとわざ」に注目を。例えば「…とされた。すると…」(8・3、13、26、32)を見よ。山上の説教も同様、「あなたの敵を愛せよ」と主が言われたら、そうなるのです。山上の説教で主と向き合い、主が語られるとそうなるとは！

③王なるイエスの五大説教。5～7章は「山上の説教」。10章は「使徒派遣の説教」。13章は「七つのたとえの説教」。18章は「教会的説教」。24～25章は「終末の説教」。

5 5章

①王なる救い主の準備（1・1～4・25）。系図と誕生、博士たちの来訪、エジプトへの逃避、バプテスマのヨハネの宣教、主イエスの受洗と試練・誘惑、そして宣教の開始です。

②王なる救い主の王国の憲法（5・1～7・29）。さいわいなるかな、まされる義・隣人と神様への全き愛、そして厳かな二つの道です。

③王なる救い主の力（8・1～9・38）。いやしの奇跡、弟子としての道、メシア（救い主）の権威、マタイの召命、断食 問答などです。

④王なる救い主の活動の絶頂（10・1～16・12）。12使徒へのメッセージ、メシアについての質問、天国のたとえ、バプテスマのヨハネの死、バンの奇跡と湖上の奇跡、主のお声、「心安かれ、我なり、恐るな」、「食卓から落ちるパンくずを」のカナンの女の信仰などです。

⑤王なる救い主の十字架への道（16・13～20・34）。ペテロの信仰告白と受難予告、変貌山の出来事、教会的説教、結婚に

ついでに教え、富と救い、盲人のいやしなどです。

⑥受難週の出来事（21・1～25・46）。エルサレム入城と宮きよめ、指導者たちとの論争、エルサレム陥落と再臨についての預言、世のさばきについてのたとえなどです。

⑦王なる救い主の十字架（26・1～27・66）。ユダの裏切りと主イエスの逮捕、裁判と十字架処刑、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ！」マタイは十字架上の7言中、この1言（第4言）のみを記します。この驚愕きょうがくの事実がなければ人類の救いはありません。小島伊助先生はこれをマタイ福音書の金言としました。

⑧王なる救い主の復活（28・1～20）。復活の日の出来事と復活後の顕現。そして、世界宣教命令。見よ、世の終わります、共にいる！本書はインマヌエルなるお方の降誕で始まり、インマヌエルなるお方の永遠の臨在で終わります。

マルコ福音書を理解する

福音書の中でも最短（全16章）。本書により主イエスの行動を端的に把握することが可能です。

1 記者マルコ

記者マルコの別名は、ヨハネ(使徒12・12)。パウロらの第一回伝道旅行中、途中から引き返してエルサレムへ(使徒13・13)。しかし後、彼はパウロにとって大いに役立つ者に(Ⅱテモテ4・11)。彼の母の家の2階座敷は弟子たちが集まり祈る場所(使徒12・12)。彼は早くから福音に接し、特にペテロとは親しい関係にあり、ペテロを通して回心したと思われれます。ペテロは愛情を込めて「わたしの子」と彼のことを呼んでいます(Ⅰペテロ5・13)。

2 書かれた時

ペテロの生きていた時であれば、紀元60年頃。ペテロの死後であれば、紀元68年頃。

3 書かれた場所

伝統的には、ローマにおいて。

4 書かれた目的と主題

10・45に本書の目的が明示。「人の子も、仕えられるためではなく仕えるために…来たのです」。一般の人々はユダヤ人の持っている旧約聖書の知識に乏しい。旧約の預言成就というマタイ的視点でなく、イエスという人の生涯を平明に書いた物語を知りたいとは異邦人一般の願い。マルコはそれに答

えています。主題は「謙遜で完全な僕としてのイエス」。

5 ココが特色、ここも見たい

①冒頭は「イエス・キリストの福音」。福音書全体に「福音」ということばは12回使われているが、そのうち8回もマルコが用いています。

②特筆すべきは、ギリシャ語の「ユーセオス」の多発。「すぐに」「ただちに」と訳されることば。少なくとも40回以上使用。休みや中断のない、僕イエスの行動がキビキビと描かれています。また、少々「せっかち」なペテロの性格も反映しているでしょうか。

③簡潔な筆致。他の福音書よりも短く、先へ先へと手際よく筆が進められています。

6 あらすじ

- ①僕なるキリストの準備(1・1～3・6)。表題、先駆者ヨハネの準備、伝道活動の開始、学者たちとの論争などです。
- ②僕なるキリストの伝道の最盛期(3・7～8・30)。たとえによる教え、多くの奇跡、ガリラヤ湖周辺での食する間もないほどの精力的な活動などです。
- ③僕なるキリストの十字架への道(8・31～10・52)。1回、2回、3回と苦難予告が続きます。

④ 僕なるキリストのエルサレムでの活動(11・1～13・37)。最後のエルサレム入城、いちじくの木ののろい、宮きよめ、教えと論争、終末についての教えなどです。

⑤ 僕なるキリストの受難(14・1～15・47)。最後の晩餐、ゲツセマネから逮捕、裁判、十字架処刑、埋葬までです。

⑥ 僕なるキリストの復活(16・1～8)

⑦ 補足—大宣教命令(16・9～20)

7 恵みの落ち穂拾い

① 安息日の大多忙(1・21～34)。午前、会堂、午後、ペテロの家、夜、外での活動。その翌日「そうですから、月曜日、主イエスは朝、夜の明けるよほど前に祈られました」とバックストン先生。竹田俊造校長夫人が修養生の方を振り向くと、当時の修養生小島伊助先生は思わず首をすくめたと。

② 打たれた僕、打たれた岩(2・13～28)。3回「なぜ」と打たれる。「なぜ…罪人たちと一緒に食事をするのですか」(2・16)、「なぜ…断食をしないのですか」(2・18)、「なぜ…安息日してはならないことをするのですか」(2・24)。

打たれた岩から出たものは、「正しい人を招くためではなく、罪人を招くため」との「いやしの水」(出エジプト17・6)、「花婿が一緒にいる間、断食できるでしょうか」との

「喜びの蜜」(詩篇81・16)、「人の子は安息日にも主です」の「自由の油」(ヨブ29・6)。(御牧碩太郎先生)

③ 使徒の選定(3・13～15)。その目的が「彼らを自分のそばに置くため」とは！(バーネット先生)

④ ただ信ぜよ。信仰による神様のみわざ。「恐れないで、ただ信じていなさい」(5・36)。この聖句を小島伊功先生は本福音書の金言としています。

⑤ 主に従う者三態。富める青年「顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った」(10・22)、弟子たち「弟子たちは驚き、ついて行く人たちは恐れを覚えた」(10・32)、バルテマイ「踊り上がってイエスのところに来た…イエスについて行った」(10・50、52)。御牧碩太郎先生のメッセージです。

⑥ And Peter」とペテロに…」(16・7)。3回も主イエスを否定した「ペテロ」の名前をわざわざ入れられた主の深い愛。チャプマン博士の大説教です。

ルカ福音書を理解する

分量からすれば福音書中最大。バックストン先生はルナン(Renan)の言葉を引いて、「今まで書かれた書物の中で最も美

しい書物である」と言っています。

1 記者ルカ

パウロの同労者、親友、医者ルカ。最も理想的な宣教師について記した宣教師（バックストン）。聖書中、ただ一人の異邦人記者。教養のある人物。真剣に観察する歴史家。

2 書かれた時と場所

使徒の働き以前、執筆年代は61年以前。パウロと同行のカイザリヤ滞在二年間に書かれたとすれば57年か58年。ローマでの二年間であるとすれば、59年か60年。

3 書かれた事情と宛先

直接的には、テオフィロを信仰に導こうとして資料を集め、綿密に調べて執筆（1・1〜4）。テオフィロは、「閣下、殿」と呼ばれるローマの高官、一異邦人求道者。本福音書執筆の経費を支払ったか。本書はテオフィロに代表される全異邦人に向かって書かれたと見ることができよう。

4 書かれた目的と主題

ギリシア人に対して、キリストを完全な人として示す。「人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです」（19・10）は目的と主題。

5 何が特色、何が新しいか

① 罪人への福音書。主イエスの罪人へのあわれみが全書にみながります。罪ある女（7・37）、よきサマリヤ人（10・30）、放蕩息子（15・18）、取税人ザアカイ（19・1）、十字架上の犯罪人の救い（23・39）などをご覧ください。

② キリストの人間性あふれる福音書。我らの救い主が、同情心に富み、感情が豊かで、成長する力をもった人間として描かれています。

③ 女性への福音書。クリスマス物語に登場するエリサベツ、マリア、アンナと言った信仰深い女性たち、ナインのやめ、罪ある女性など悲しみ痛む女性たち、主イエスの伝道団に持ち物をもって参加する女性たち、マルタ、マリアの信仰姉妹、十字架の主に従い涙する女性たち、復活の出来事を体験した歓喜の女性たちなどが生き生きと描かれています。

④ 祈りの福音書。主イエスの祈りのみ姿が描かれています。バプテスマ（3・21）、変貌山（9・28）、ゲツセマネ（22・44）のすべてに、主イエスの祈りのみ姿を描いているのはルカだけです。寂しいところに退いての祈り（5・16）、使徒選定の徹夜の祈り（6・12）、とうとう弟子たちは、この

祈りの姿を見て、「私たちにも祈りを教えてください」(11・1)と懇願するのです。

⑤ 賛美の福音書。クリスマス物語には「マリアの讃歌」、「ザカリヤの讃歌」、「天使の讃歌」が沸き立っています。そして本書は「神をほめたたえていた」という賛美で終わっています(24・53)。

⑥ 聖霊の福音書。聖霊についての言及が多く、最後は「約束の聖霊」を待ち望むことが命じられています。

⑦ 異邦人の救いのための福音書。異邦人への恵みが全巻にあふれています。

6 あいさつ

① 序言(1・1〜4)

② 人の子イエスの準備(1・5〜4・13)。受胎告知、誕生、幼少時代、バプテスマ、荒野の試誘などです。

③ 人の子イエスのガリラヤ伝道(4・14〜9・50)。伝道の開始、敵対者の出現、弟子教育、伝道の拡張、終結などです。

④ 人の子イエスのエルサレムへの道(9・51〜19・48)。「エルサレム途上」の記述に注意しましょう(9・51、13・22、17・11、18・31、19・28)。そしてそれが見えた時の主イエスの号泣(19・41)。良きサマリア人、マルタとマリア、失われ

たものの三つのたとえ(羊、銀貨、放蕩息子)、ザアカイの救いなど興味深い記事が満載です。

⑤ 人の子イエスの受難と十字架(20・1〜23・56)。終末についての警告、過越の食事、逮捕とペテロ否認、裁判、十字架と埋葬などの厳かな記事。

⑥ 人の子イエスの復活(24・1〜53)。空虚な墓、夕暮れのエマオへの途上での二人の旅人への顕現は美しい復活物語です。

7 変貌山からエルサレム、カルバリーへ

9章には二つの主の御顔を見ます。「祈っておられると、その御顔の様子が変わり…光り輝いた」(9・29)「天に上げられる日が近づいて来たころ…御顔をエルサレムに向け、毅然として…」(9・51)。「輝く御顔」と「恐れなき御顔」。栄光の主は真つ直ぐにエルサレム、カルバリーへ。バックストン先生は、変貌山とカルバリーを対比します。変貌山では御顔は輝いていた。しかし、カルバリーでは御顔はさげすまれた。変貌山では御衣はまばゆく輝いた。しかし、カルバリーでは御衣はくじびきにされ奪われた。変貌山では、栄化された二人はイエスの左右に。しかし、カルバリーでは二人の犯罪人がイエスをのしつた。変貌山では、栄光の雲がわき起こった。

しかし、カルバリーでは暗い濃き雲がこれを覆った。変貌山では天からの御声があった。しかし、カルバリーでは沈黙と苦悩があった。ああ、こうして人類の救いは成就しました。

ヨハネ福音書を理解する

第四福音書である「ヨハネの福音書」は先の「共観福音書」を補うものとして書かれました。これによって、主イエスのご人格とその働きは完璧に描かれることとなります。

1 記者ヨハネ

主イエスの愛された側近の三人の弟子の一人、使徒ヨハネ。かつては兄ヤコブと同様、激しい気質で主イエスから「雷の子」と言われました。12使徒中最も年も若く「イエスが愛しておられた弟子」(13・23)。ペテロ、パウロの殉教後、エペソ教会の長老として牧会。ドミティアヌス帝治世にパトモス島に流され、エペソに帰り、老年まで牧会。紀元100年頃召天と思われます。

2 書かれた時と場所

他の福音書よりも1世代ほど後、紀元30年から100年までの間、もつと絞れば85から90年の間に書かれました。執筆場所

は断定できませんが彼が牧会をしていたエペソと思われるます。

3 本書の目的と主題

三つの共観福音書は、エルサレムが陥落した紀元70年以前に執筆。教会には、すでに偽教師もあらわれ、主イエスの神の子であることや肉体をもって来られたことを否定。ヨハネは、共観福音書を補うと共に、こうした異端に対しても主イエスが肉体をもって来られた神の子であることを明示します。ですから、本書の目的は、「イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため」(20・31)。主題は「神の子イエスの働きと教え」です。

4 これが特色、ここも見どころ

① 深遠な福音書。高い格調で、信じる者を主イエスとの深く聖い交わりに入れるため記されました。

② ヨハネ福音書に除外されているもの。系図なし。イエスは神様と共にあられ、神様であられたからです。誕生の記事もなし。イエスは「初めから」おられたからです。少年時代、誘惑、変貌、昇天の記事もなし。初めから神の子は、我らと共におられる神様だからでした。

③ イエス・キリストが神の子であると証言した「七人の証人」。

第1にバプテスマのヨハネ。「この方が神の子である」(1・34)。第2にナタナエル。「あなたは神の子です」(1・49)。第3にペテロ。「あなたが神の聖者であると」(6・69)。第4にマルタ。「あなたが…神の子キリストであると」(11・27)。第5にトマス。「私の主、私の神よ」(20・28)。第6にヨハネ自身。「イエスが神の子キリストである」(20・31)。最後にキリストご自身。「わたしは神の子である」(10・36)。

④ イエス・キリストが神の子であることをあかしする「七つの奇跡」。この奇跡をヨハネは「しるし」と言います。第1に水をぶどう酒に(2・1～11)。第2に役人の子のいやし(4・46～54)。第3にベテスタの男のいやし(5・1～9)。第4に5千人の給食(6・1～14)。第5に水の上を歩かれる(6・15～21)。第6に盲人のいやし(9・1～41)。最後にラザロの復活(11・1～57)。

⑤ イエス・キリストが神の子であることを宣言する「七つの『わたしは…』」。第1に「わたしがいのちのパンです」(6・35)。第2に「わたしは世の光です」(8・12)。第3に「アブラハムが生まれる前から『わたしはある』なのです」(8・58)。第4に「わたしは良い牧者です」(10・11)。第5に「わ

たしはよみがえりです。いのちです」(11・25)。第6に「わたしは道であり、真理であり、いのちなのです」(14・6)。最後に、「わたしはまことのぶどうの木」(15・1)。七は完全数、完璧な証言。

5 あらすじ

① 序言(1・1～18)

② 神の子イエスの初期の伝道(1・19～4・54)。共観福音書の記すガリラヤ伝道以前のもの。ここにニコデモやサマリヤの女への個人伝道があつたのです。早くも十字架(荒野の蛇)の啓示です。

③ 神の子イエスの伝道の最盛期(5・1～12・50)。いやし、講話、奇跡、論争、赦し、復活、陰謀、香油注ぎ、エルサレム入城などです。

④ 神の子イエスの告別説教(13・1～16・33)。洗足、告別予告、「もう一人の助け主」聖霊についての教え、ぶどうの木の講話、励ましなど。

⑤ 神の子イエスの深遠な祈り(17・1～26)

⑥ 神の子イエスの十字架(18・1～19・42)。逮捕、大祭司と総督の前での六回にも及ぶ裁判、十字架、埋葬などです。

⑦ 神の子イエスの復活(20・1～29)。空虚な墓、エルサレム

での顕現、ガリラヤでの顕現、ペテロとの問答などです。

使徒の働きを理解する

ルカ福音書では、キリストが「行い始め」られたこと、使徒の働きでは、主が聖霊によって「行い続け」られたことが書かれています。使徒の働きは使徒たちを通して働かれた聖霊行伝と言えます。

1 記者ルカ

本書の冒頭のことばからして、本書とルカの福音書の記者が同一人物であることは明らかです。

2 書かれた時と場所

執筆年代は、パウロがローマに到着してから2年後と見るのが妥当。紀元61年頃か。

3 本書の重要性と主題

福音書と使徒たちの手紙をつなぐもの。初代教会の歴史を知る上で重要な資料。初代教会の成立、礼拝、伝道、海外宣教の状況などが知られます。主題は文句無く1・8。「しかし、聖霊があなたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さら

に地の果てまで、わたしの証人となります」。これを軸に使徒の働きは展開します。

4 これが特色、ここも見どころ

①福音書と使徒の働き。福音書は、われわれの罪のために死ぬために来られた人の子を示し、使徒の働きは、聖霊の力によって来られた神の子を示しています。

②使徒の働きの区分。使徒の働きは二区分されます。1章から12章までは、ペテロを中心とした記述。13章から28章までは、パウロを中心とした記述。彼らのメッセージの中心は、「神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰」(20・21)でした。

③宣教に対する指導書。疑いなく、使徒の働きは、宣教に対する最善の指導書です。宣教の主題は主イエス・キリスト、宣教の手段は神の言葉、宣教の動力は聖霊、宣教の器は神の人だったのです。

④使徒の働きに一章を加えよ。使徒の働きはローマでのパウロの活動でプツリ切れています。実は、聖霊の働きは終わっていません。ですから今、私たちが「使徒の働きに一章を加えましょう」。

5 あらすじ

使徒の働きは、鍵の言葉1・8を軸に展開されます。まずは、エルサレムにおける宣教、次にユダヤとサマリア全土における宣教、そして地の果てまでの宣教です。

①エルサレムにおける宣教(1・1～8・3)。準備期間、ベントコステにおける聖霊降臨、初代教会誕生、いやしの奇跡、迫害、逮捕、アナニアとサツピラの罪とさばき、7人の執事の選出、ステパノの殉教などです。

②ユダヤとサマリア全土における宣教(8・4～12・25)。ピリピの宣教、福音はサマリアへ、エチオピアの宦官の個人伝道、パウロの回心、ペテロの宣教、コルネリウスの回心、アンテオキヤ教会の設立など。

③地の果てまでの宣教(13・1～28・31)。パウロの第1回伝道旅行、「聖霊に送り出され」：キプロス、ピシディアのアンテオキヤ、イコニオン、リステラ、デルベ伝道からエルサレム会議。パウロの第2回伝道旅行、ピリピ、テサロニケからアテネへ、コリント、帰途へ。パウロの第3回伝道旅行、エペソ、マケドニア伝道、エルサレムへ。パウロの逮捕、ローマへの旅。

6 恵みの落ち穂拾い

①使徒の働きで三つの大切なこと。第1に「神の霊」、第2に「神の言葉」、第3に「神の人」。私たちの伝道においてもこの三つのことが一番大切です(バックストン)。

②聖霊によりて。復活・栄光のキリストにおいてなお、「聖霊によりて」のご存在。主イエスはご自身の弟子たちにも「聖霊によりて」の存在になって欲しいと願われる。聖霊さえ臨まればだれでもキリストの証人に。万事聖霊、万事祈祷！

③聖霊に満たされるために。第1に「切なる渇き、祈り」(1・14)。第2に「真実な悔い改め」(2・38)。第3に「神様への明け渡しと服従」(5・32)。第4に「主ご自身とあがないのみわぎを『信じる』」(15・8、9)。

④「金銀は我になし」という時代はもはや終わった」と中世教会の絶頂期を誇る法王インノケンティウスⅢ世に、「しかし、『しかし、わたしにあるものをあげよう。ナザレ人イエス・キリストの名によって歩け』との時代も終わった」とトマス・アクイナス。

⑤嵐後快晴。教会に嵐が。しかし必ず快晴となる。4章で迫害の嵐。その後、熱祷の結果、聖霊の注ぎの大快晴。5章

で聖霊をあざむく罪と裁きという嵐。その後、しるしと奇跡の大快晴。6章で教会内の苦情・対立という嵐。その後、7人の執事が選出の大快晴。

⑥ちよつと聖書川柳。1章「へたばつてひたすらに待つ天からの火」。「くじ引きで使徒選びとはちよつとマツテヤ」。2章「血、火、煙、新時代は開けたり」。「聖霊に酔えるはヨエルの預言なり」。3章「わがうちにあると言えてぞ伝道者」。4章「恐れなきガリラヤ人を恐れたり」。5章「ああ、震撼、み霊をあざむき打たれたり」。「ア、ナニヤ、偽善欺き、サツピラごめん」。6章「呼ばれたし、信仰・恵みに満ちた人」。あとは、皆さんで…。

⑦二つの「さあ」。聖霊が「さあ、…」と呼びかけられ、第1次伝道旅行へ(13・2)。人間(パウロ)が「さあ、…」と呼びかけ(15・36)、激論、二グループに分裂。御霊の軌道修正の後、福音はヨーロッパへ。今日、牧師か役員か誰かが「さあ、…」と呼びかけるか、聖霊が「さあ、…」と呼びかけられるか。わが霊によるなり!

⑧使徒の働きに見る宣教における聖霊の働き。まず、宣教の大命令には二重性があります。「出て行け」(マルコ16・15、マタイ28・19)と「離れるな、留まれ」(1・4)。そして「聖

霊に満たされ、御霊がまま」の存在に(2・4)。「御霊の導かれるまま」の宣教を見てください。「御霊がピリポに…行きなさい」(8・29)、「御霊が彼に言われた。『…さあ、下に降りて行き、ためらわずに彼らと一緒に行きなさい』」(10・19、20)。こうして異邦人への宣教の門戸は開かれました。第一回伝道旅行へも聖霊が「さあ、…」(13・2、4)と呼びかけられ、エルサレム会議も「聖霊と私たち」(15・28)でなされ、海外宣教も聖霊の軌道修正(16・6、7)によりなされたのです。聖霊に満たされ、導かれ、21世紀の宣教のみわさを願わされます。

(※「牧羊者・二〇〇五年度Ⅲ巻」に掲載されたものを、一部再編集して掲載しました。)

聖書 詩篇121・1〜8

タイトル 私の助けはどこから

暗唱聖句 私の助けはどこから来るのか。私の助け

は【主】から来る。天地を造られたお方から。 詩篇121・1、2

目標 助けと守りが神から来ることを覚えつつ、一年の歩みを始める。

導入

(土屋開夫)

皆さん、主にあつて新年おめでとうございます！ イエス様の恵みが無ければ「おめでとう」とはとても言えないような世の中ですが、大変な時代にあつても、イエス様の恵みがあるなら「おめでとう！」と言えます。

コロナ禍の中でも

さて、新年最初のみ言葉は、とっても素晴らしいみ言葉です！ 「私の助けは【主】から来る。」

3年前の二〇二〇年からコロナ・ウイルスがどんどん流行り出して、みんなとっても怖かったですね。お店もあちこち閉まってしまうし、まるでゴーストタウンのよ

うでした。そんな中、教会も日曜日に扉を閉める所がたくさんありました。

でもそんな時、デボーションの小冊子を通して、この詩篇121篇のみ言葉が与えられました。一言で言うくと、「主はあなたを守られる」という事が繰り返し繰り返し語られているのです！ このみ言葉を頂いた時（その日は筆者の誕生日でした！）、私は「絶対に大丈夫だ！ いろんなことがあつてもイエス様が必ず守ってくださる！」と確信しました。そして教会で皆で集まる礼拝も、工夫をしながら一度も休まず続けて来ました。

不思議なようにその後も数えきれない程、何度もこのみ言葉を語られました。ドラマ（大草原の小さな家）を見ていても、トイレに入つても、キリスト教書店に行つてもこのみ言葉がありました。このみ言葉でこの3年間、ずっと支えられてきました。今も机の前に置いてあります。そして今日、皆さんにもこのみ言葉が語られているのです。では改めて読んでみましょう。

助けは主から来る

まず1〜2節を読んでみましょう。私たちは、怖い時、

不安な時、困った時、どこに助けを求めるでしょうか？
お父さんやお母さん？ お医者さん？ お金持ちの人？
インターネットで調べる？

でも、私たちの一番の最大の助けは、主なる神様から、
そしてイエス様から来る！ その事を忘れないでください。
い。どんなピンチの時も、まず神様に祈ってください。
天地を造られた神様は、どんな事だってお出来になるの
です！ まずこれを本気でしっかり信じてください。

どんな時でも、どんな事からも

3〜6節を読むと、神様は、昼でも夜でもどんな時で
も、一瞬も居眠りをすることも無く、あなたをいつも見
守っておられる、と語られています。

そして7節には、「すべてのわざわいからあなたを守
り」とあります。コロナだけではありません。今の時代
は特に、色々な大変なことがありますね。戦争も起きて
しまいましたし、偽物の教会が人々を騙したりもしま
すし、大雨、大地震、大噴火、色々な災いがあります。

でも、「すべてのわざわいからあなたを守り」と約束さ
れています！ 勿論、病気になるったり、大変な目にも会

うかも知れません。でも、その中であっても、ちゃんと
乗り越えられるように、イエス様が共にいて必ず守って
くださるのです！

何より、イエス様の十字架によって神のこともとされ
た私たちのたましいは、天地が減びても絶対に失われる
事はないのです！

とこしえまでも

そして8節。人生は「旅」、私たちは天の故郷・ゴール
を目指す「旅人」です。皆さんが中高生になっても、大
人になってもずっと、イエス様は私たちの人生の旅路
を守ってくださいるので！

この詩篇の中には、「守る」という約束が何回も出てき
ます。「おおう」も含めれば7回。だから、どうぞ皆さ
ん、安心してください。不安になる時、この主の約束を
思い出してくださいね！

♪私は山に向かって♪

(ゴスペル・ミュージック ベストヒット集59)

聖書 詩篇121・1〜8 テーマ 私の助けはどこから

序論

(石田高保)

日本人クリスチャンである私たちも元旦に父なる神を礼拝して新しい年に臨むという美風を受け継いできました。今日は創造主なる神様を礼拝したいと思います。

一、安心の土台

詩篇には大自然を創造した神様を賛美するものが少なくありません。その偉大さに圧倒されて自然そのものを神として拜んだり、神格化したりすることは、古今東西、当たり前のように行われてきましたし、人間的には極めて説得力のある営みです。しかし聖書を授けられたイスラエルは、その強力な誘惑を退けて、自然を創造された見えない神様へ目を向けることに曲がりなりにも努めてきました。目に見える力強い現実を超越して見えない方を当てにしようとする信仰の営みは、勇気の要るものです。神様は見えないので、信仰者といえども何らかの困難な状況に陥っている場合は、どのようにお頼りすればいいのかわからなくなることがあるのはやむを得ないこ

とです。そのような時、この詩篇は、山に向かつて目を上げる」と言って、その山ばかりか（天地を造られたお方）を思い見るよう勧めます。この山はシオン、すなわち神殿をいただくエルサレムのことだと考えられます。山と言いながら実は主なる神を指しているわけです。見るべきお方、頼るべきお方は【主】です。預言者も「目を高く上げて、だれがこれらを創造したかを見よ」と叫びます（イザヤ40・26）。神様は見えなくても、被造世界の森羅万象に目を留めるとき、目に見える何ものよりはるかにまさって確かで偉大なお方にお頼りしようという思いが湧いてくるのではないのでしょうか。実に「目に見える望みは望みではありません」（ローマ8・24）とあるとおりです。

二、安心の根拠

（あなたを守る方は まどろむこともない。見よ イスラエルを守る方は／まどろむこともなく 眠ることもない）、と神様が眠ることなく信仰者を守って下さることが強調されています。私たちが眠っている間も神様は寝ずの番をしておられるとは、何と驚くべきこと、また安心なことでしょうか。「親思う心にまさる親心」と吉

田松陰は詠みましたが、天のお父様は24時間365日、私たちを例外なく見守り、心配し、いつでも助けようとて関わって下さっていることは、神様を思う思いとは比べようありません。「そのような知識は私にとつて／あまりにも不思議／あまりにも高く 及びもつきません」(詩篇139・6)と詩篇の記者と共に感嘆するばかりです。

〈昼も 日があなたを打つことはなく／夜も 月があなたを打つことはない〉、真夏の太陽が私たちの皮膚を射るような感じがするのはお互い経験するところでしょう。しかし主は自然の脅威からも私たちをしつかりガードして下さることを忘れないでいたいものです。たとえ天変地異に見舞われることがあつたとしても、それらをはるかに凌駕する天のお父様に目をとめれば、揺るがぬ平安に覆われるのではないのでしょうか。

〔主〕は すべてのをざわいからあなたを守り／あなたのためししいを守られる(ここまで言っている背景には、神様への絶対的な信頼があるからでしょう。たとえそうでない事態が起きたとしても、「わたしはあなたにより頼みます、信頼します」という信仰告白になっています。

〔主〕はあなたを 行くにも帰るにも／今よりとこしえまでも守られる(守って下さるのであって、片道だけではないということ)です。いったん家を出たら、その全ての行程に主の見守りと御手が伸べられています。また「私が暁の翼を駆って／海の果てに住んでも／…あなたの右の手が私を捕らえます」(詩篇139・9～10)とあって、主が信じ依り頼む者にトコトン真実なお方であることは疑いの余地がありません。ちよつとした買物にも、長距離の運転にも、何日にもわたる出張にも、主の守りが途切れることが一瞬もないとは、この世にはない安心です。さらにこの守りは(今よりとこしえまでも守られる)とあるので、私たちの生涯を通じて途絶えないという保証です。

結論

主により頼む者は決してはずかしめられることがなく、十重とえ二十重はたえと人生のあらゆる領域において守られているという大安心を土台として生きることが出来ます。たとえ不可抗力で災いを身に受けることがあつたとしても、それは主の御手の中で最小限にとどめられたと信じ受け取ってまいりましょう。

研究資料

(宮澤清志)

この詩篇は、「都上りの歌」(詩篇120篇〜134篇)と呼ばれる歌の一つである。イスラエルには、昔から三大祭(過越の祭、七週の祭、仮庵の祭)があり、その際には多くのユダヤ人がエルサレムに詣でる風習があった。これらの歌は、その際によく歌われた歌だと思われる。

テキスト

この詩は前述したように「都上りの歌」の中の一つである。この詩の背景としてはいくつかの可能性が指摘されている。たとえばエルサレムの都に出かけるときの歌であるという可能性もあるし、また都への途上にある歌という指摘もある。また都からの帰途にある中で歌われたという可能性もある。それらの可能性は、特に1〜2節をどのように理解するかによって様々な立場がある。

1 私は山に向かって目を上げる 「山」は直訳すると

「あの山々」となる。この詩の作者はある特定の「あの山々」を見上げる位置にいたのであろうと推察できる。

では、この作者はどこに立ってこの詩を読んでいるのであろうか。一つの理解は聖都エルサレムの間近から

山々を見上げる理解である。巡礼の旅が終わりに差し掛かるころ、シオンの山々を見上げつつ読んだ歌であるとする理解である。もう一つの理解は、聖都エルサレムの都から遠く離れた場所に立ちつつ山々を見上げる理解である。両者の理解の仕方によって、1〜2節の読み方が異なってくる。**私の助けは どこから来るのか** この読み方は、前述のこの詩人の立ち位置によって異なる。前者を採れば、この言葉は疑問文ではなく、すでにその答えを知っている言葉となり、何の疑いもなく2節へと続く。一方後者を採れば、詩人は山々を見上げつつ、現実の不安とおのきのきの中にあつてこの言葉をつぶやいたものと考えられることもできる。

2 私の助けは「主」から来る。天地を造られたお方か

ら。山々に目を向けた作者が必然的にたどり着いた結論である。不安や問題のある中で、まさに「私の助け」は、「天地を造られたお方(主)」から来るのである。主は無から有を創造される方であり、詩人の不安をも吹き消す力を持つておられるお方なのである。

3〜8 1〜2節では、主語は「私」であるが、3〜8節ではその主語は「あなた」へと変化する。したがって、

3節からは、「私」である巡礼者を送り出す者が、その出発に際して巡礼者に贈った祈りの言葉とみることができ。また巡礼の道中であれば「私」と「あなた」の交唱ともとれる。

3 よろけさせず 「よろける」とは、足が動くこと。イスラエルのごつごつした、そして細い山道においてよろけることは、死を意味していたと考えられる。その意味で、主が私たちの足を守って下さることは信仰者にとって大きなことである。**あなたを守る方** 主は信仰者を個人的に守って下さる。

4 イスラエルを守る方 主は信仰者個人を守って下さるばかりでなく、彼の属する共同体を守って下さる方でもある。**まどろむこともなく 眠ることもない** 信仰者は、時として眠りこけ、また眠りをむさぼりさえしてしまう(マタイ26・40、イザヤ56・10)。しかし、主は常に働いて下さり、信仰者を「守る方」である。

5 右手をおおう陰 陰とは一般に守護を意味する言葉である(エレミヤ48・45、詩篇91・1)。右側に守護者がたっていて下さることであろう。しかし、この「右の手」とは、単なる右側ということではなく、全身を意味

する言葉である。

6 この節は、一日中人を脅かすものについての記述である。**昼も 日があなたを打つことはなく** 日中の、熱射病を起こすほどの強い日差しのことであろう。**夜も月があなたを打つことはない。** この当時、「夜」の「月」は一種の熱病などを引き起こす原因と考えられていた。
7 **あなたのみたましいを守られる** この「たましい」は単なる肉体的な生命ではなく、精神的にも霊的にも、生活におけるすべてを含んだものである。主は私たちのすべてを守って下さる方なのである。

8 **今よりとこしえまでも守られる** これまで述べてきた生活全般にわたって、という、いわばこれまでの締めくくりの言葉。**行くにも帰るにも** 「出ると入る」(口語訳)、「出で立つのも帰るのも」(新共同訳)。巡礼の旅の全道中において、という意味か、もう少し拡大して、どこに行っても、という意味にも解釈できる。

参考図書 石黒則年「詩篇(73～150篇) 新聖書講解シリーズ 旧約12」、鍋谷堯爾「詩篇を味わうⅢ」(以上のちのことば社)、他

聖書

タイトル

暗唱聖句

Ⅱコリント5・13～19
新しく造り変えられる

だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。

Ⅱコリント5・17

目標

キリストにあつて新しく造られた者として生きる。

導入

新年あけましておめでとうございます！

(飯田勝彦)

皆さんは、どんな思いで新しい年を迎えましたか？
「今年こそはあれもしよう。これもしよう」と期待に胸を膨らませている人もいれば、去年からの不安や問題を抱えたままで新しい年を迎えた人もいるかも知れませんが。私たちがどのような思いであったとしてもあなたを愛しておられる神様は、今年もあなたと一緒に歩んで下さいます。今年も、神様の恵みを受け取りましょう。

自分では新しくなれない

さて、今日の聖書箇所には「新しく」という言葉が繰り返されています。皆さんの中で新しい年を迎えて、新

しくした物がありますか？ ある人は、新年には新しいシャツやパンツを身につける人や、自分の持っている鉛筆やノートなどをすべて新しくする人もいます。それは、周りの物を新しくすることで、心を新たにしたいという思いが込められているように思います。私たちの心は、周りの物が変わったら新しくなるでしょうか。新しい心は、しばらくの間は続くかも知れませんが、時間が過ぎると鉛筆やノートが古くなるように、私たちの心も変わってしまうのではないのでしょうか。

皆さんの中に、「がんばれば、自分は新しくなれる」と思っている人がいませんか？ 「強い気持ちをもつて、しっかりと勉強すれば、新しい自分になれる」って。自分の努力で本当に新しくなれるのでしょうか。そうではないことを嫌というほど経験しているでしょう。

本当に私たちが新しくされるには、まず自分の力で新しくなることは出来ないことを知ることが必要です。

イエス様が新しくしてくださる

では、どのようにしたら新しくなることができるのでしょうか。また、誰が皆さんを新しくしてくださるのでしょうか。それはイエス様です。イエス様だけが、私た

ちの心を新しくしてくださるお方です。

皆さんは「リフォーム」という言葉を聞いたことがありますか？ 古くなった家を修理したり、増築したりして新しくすることです。でも、この「リフォーム」は、古い部分が残っています。イエス様は、私たちの古い部分を残して新しくされるのではありません。この古い部分とは、罪です。もし、罪を残しておいて、ただ周りの物だけ新しくしても本当の意味で新しくなったとは言えません。

ある所に、非常になが悪く、いつも喧嘩ばかりしている家族がいました。ある時、家が古くなったので家を新しくしました。その家族は、新しい家のために、協力して水道や電気、食費などを節約してお金を貯めました。すると家族に一致が生まれ、仲が良くなったのです。そして、新しい家に引っ越して新しい生活が始まりました。でも、しばらくするとまた前のような仲の悪い家族になってしまったのです。この家族の周りは新しくなりませんでした。でも、家族一人ひとりの心は古いままで何も変わっていないのです。そのように、私たちの内にある古い罪が新しくされなければ、本当には新しくならな

いのです。

イエス様は、私たちを新しく造り変えることのできる神様です。そのために十字架にかかり、尊い血を流されました。そして、三日目に死より復活されたのです。自分の罪を認め、イエス様を救い主として信じる時、私たちは新しく造り変えられます。そして、イエス様の復活の命が私たちの内に与えられます。すると、イエス様を愛し、お友だちを愛する新しい心と新しい生活が始まるのです。

「だれでもキリストのうちにあるなら」とあるように、勉強ができる人や心の優しい人、スポーツができる人が新しくされるわけではありません。イエス様を信じる人は誰でも新しくされます。

まとめ

皆さんは、もうイエス様を信じて新しく造り変えられていますか。新しくされると愛と喜びがあふれてきます。感謝なことにイエス様は私たちを一度だけでなく、日々新しくして下さいます。

新年、新しくされる恵みを体験して歩みましょう。

♪歌いつづけよう主のあいを♪(ホ77)

聖書 エコリント5・13〜19 テーマ キリストによる新創造

序論

(鎌野善三)

今週は、新年にふさわしく、「新創造」がテーマとされている。パウロはコリントに住む信徒たちに、キリストを救い主として信じた者はどのような生活をすべきかを教える手紙を書いた。その根本原則が、今日のテキストに示されている(新しく造られた者)(原語では、「新しい創造」としての自覚をもつことである。「新しい」という意味のギリシヤ語には二つあるが、「カイネー」という語は質的な新しさを強調している(研究資料参照)。キリストを信じるとき、過去とは全く違った性質が私たちの内に造られ、新しい人となり、その生活が変化するのである。新しい人とは、次のような人と言えるだろう。

一、キリストの愛が迫っている人

パウロは、「おまえは頭がおかしくなっている」と言われたことがあった(使徒26・24)。確かに彼の生涯を見れば、普通の人がそう思っても仕方がない。ユダヤ人とし

ての優れた血筋に生まれ、将来を約束されたパリサイ派の律法学者であったのに、それらをみな捨てて、当時「異端」と見なされていた新興宗教に身を投げ打ち、必死になつて「キリストこそ神の子、救い主」と宣教して回つていたのである。彼の根底にあったのは(キリストの愛)だった。キリスト信者にひどい仕打ちをしていた自分を、キリストは決して罰することをなさらず、逆に信徒としての重要な働きを委ねてくださった。この(キリストの愛が：捕らえている)ゆえに、パウロはもはや過去と同じ生活はできなくなった。キリストの愛に應える新しい生活が始まったのである。

現代の私たちも、キリストが自分を愛して下さっているという強い自覚があるとき、その生活は変わっていく。その愛に応答していこうとするからである。自分の行動の一つ一つに対し、「愛が動機か、欲が動機か」と自問自答してみよう。

二、古い自分に死んだ人

キリストは、(すべての人のために死んだ)ということ、パウロの(そして、すべてのクリスチャンの)確信

である。だが、さらにパウロは続ける。キリストが全人類の罪に対する神の罰をすべて引き受け、十字架で死んでくださったからこそ、すべての人は死んだ（つまり、自己中心的に生きてきた古い自分は死んだ）。そして、これからは、キリストのために生きるようになるのだ。このことが、〈かつては肉にしたがって（新改訳第3版では「人間的な標準で」）キリストを知っていた〉パウロに大きな生き方の転換をもたらしたのである。

私たちも「肉にしたがって」キリストを知っている段階、言い換えれば、頭だけでキリストを救い主として理解する段階にとどまっていられないだろうか。それでは、自分の利益のために生きることはできない。そういう自分が死なない限り、新しい生活を始めることは不可能である。十分間祈るよりも一時間テレビを見ることを好むことは、キリストの愛を知っている者に相応しいだろうか。

三、新しい自分となった人

過去の自分に死んでこそ、新しい自分となることができる。それが〈新しく造られた者〉である。自分を中心に考える「肉の子」だった者が死んで、神の愛を第一に

考える「神の子」としてよみがえることが、聖書の言う「新創造」である。新創造された者は、神と和解するだけではない。さらにこの〈和解のことば〉を人々に伝える者とされる。その実例がパウロであり、彼はこの福音を地中海沿岸に住む人々に命がけて宣教したのである。

新創造された現代の私たちも、もはや神から罰されることはない。決して「ばちあたり」にはならず、日々神から愛されて生きる「新しい自分」となる。このような人は、神の愛を常に喜び、神との交わりである祈りを絶やさない。またすべてのことを感謝して生きるようになる（1テサロニケ5・16〜18）。そういう人こそ、争いの多いこの社会の中で、「平和をつくる者」ピースメーカー（マタイ5・9）となることを銘記しよう。

結論

キリストは、私たちのために十字架で死んでくださった。私たちも、このキリストと共に十字架につけられたと確信しよう。そして、新しいこの年を、「新しい自分」となって生きていきたい。神と人とを愛して生きていきたい。

研究資料

(井上義実)

テキスト

13 正気でないとすれば 正気でない(ギ)エクセステー

メン)パウロの福音にかける熱心さ、情熱は多大なものであった。世の人から見ると、常軌を逸したものに感じられた。イエス自身も「おかしくなった」(マルコ3・21)と家族からも思われた。正気でないと見えたとしても、その動因は一般的な狂気とは全く異なる。世の人は、パウロに対して「狂気だ」、また「正気だ」と評するが、目的は神のためであり、教会の群れのためである。どちらにしてもパウロには、利己主義は全く見られない。

14 キリストの愛が私たちを捕らえている パウロは神

のため、また他者のために気が狂わんばかりに熱心である。その動機は十字架に命を捨ててくださったイエスの愛である。捕らえている(ギ)スネケイ) 駆り立てる、強いるという強い意味がある。閉じ込める、制限するという意味もある。パウロはキリストの愛に駆り立てられ、キリストの愛に囲まれている。一人の人がすべての人のために死んだ イエスの十字架の死は全人類のため

であったことが記されている。すべての人が死んだ イエスの十字架の死は、罪に死ぬべきすべての人の死を充足させるものであった。イエスの死がすべての人の霊的な死の代償となった。

15 自分のために死んでよみがえった方のために生きる 14節でイエスの十字架の死は、全人類の罪の代償であったということが示された。パウロはさらに進んで、イエスの十字架によって罪赦ゆるされた者は、イエスの愛に応えて生きる者であることを語る。死から命に移されることは、さらに発展的にローマ6・11〜14、ガラテヤ2・19〜20に語られている。罪に死に、義に生きる信仰者は、義認から聖化へと導かれるのである。

16 かつては肉にしたがってキリストを知っていた

パウロは肉と霊を相反するものとして、反語的に用いている。肉とは神に属せず、人間や世が持つ性質である。パウロはかつてキリストを肉によって知っていたという。イエスと出会う以前、迫害者パウロの時代に、イエスをユダヤ人の規準で見ているということがある。多くのユダヤ人のようにイエスを律法に反する異端者として考えていた。今はもうそのような知り方はしません パウロ

はダマスコ途上で神からの光に照らされ、イエスの声を聞いた。イエスの真実に目覚め、イエスの十字架の贖い、復活の栄光を知った。回心以来、イエスについての知識は、全く変換したのである。

17 **だれでもキリストのうちにある** くのうちに(ギ)エン) パウロが好んで用いる表現である。「キリストのうちにある」とは以下の三つに要約されよう。①律法の下にある(ローマ6・14)とは反対の意味である。②イエスの十字架の贖いによって救われ、個人の関係においてイエスと一つにされている。③救いに与った者たち主と信じ、告白するならば神との新しい関係が築かれる。**新しく(ギ)カイネー** ギリシャ語でネオスも新しいという意味で、そこらは時間的な新しさを指すのに対し、カイネーは性質的な新さを意味する。**造られた(ギ)クテイシス** 創造するという意味がある。イエスの救いに与ることは、魂に新創造の業がなされることである。**古い(ギ)アルカイオス** はじめからという意味で、通常使われるパライオスよりも始原的な含みがある。アダム以来の肉なる性質をも指している。イエスの救いに

よってすべては新しくされる。**過ぎ去って(ギ)パレールセン)** 不定過去形が用いられており、単に「過ぎた」というよりも、「完了した」と訳すべきである。

18 **和解させ(ギ)カタラツソウ)** この世の和解は、被害、加害の両者の歩み寄りによってなされる。神と人の和解は、本節に「神から出ています」とあるように、神からの一方的な和解の呼びかけである。その結果、神との間に平和が生まれ(ローマ5・1)、神との間に交わりが生まれた。**和解の務めを私たちに与えてくださいました** イエスの十字架の贖いによって私たちが救いに与る。私たちのうちに新創造の業がなされる。神との関係に和解が生まれ、平和が与えられる。さらに、和解の務めを受けて、和解の使者とされるのである。

19 **和解のことはを私たちに委ねられました** **ことば(ギ)ロゴス)** 口語訳では福音と訳されていたが、ロゴスなので言葉である。なお口語訳でロゴスを福音と訳出したのは本箇所のみである。「和解の言葉である福音、福音の本質であるイエス」を伝える。主によって新しくされた者は、この働きを使命として与えられている。

参考図書 Philip E. Hughes (NICNT, Erdmans) 他

聖書

Iヨハネ5:1〜5

タイトル

神の子として

暗唱聖句

イエスがキリストであると信じる者はみな、神から生まれたのです。

Iヨハネ5:1

目 標

信仰により神の子とされたことを自覚して生きる。

導入

この歌、知っていますか？

♪おーたまじゃくしはカエルの子、ナマズの孫ではありません…♪ では、皆さんは何の子ですか？ 人間の子ですね。「人の子」と言ってもいいでしょう。私たちは皆、人間のお父さんとお母さんから生まれた「人の子」です。まかり間違っても、絶対に「サルの子（子孫）」ではありませんよ。

ところが、聖書にはもつとスゴイ約束が書かれていますよ！ それはなんと、「人の子」である私たちを「神の子」にしてくださいと言うのです！

神の子とされる約束

「神の子」と言えば、まず真っ先に誰を思い浮かべますか？ そう、イエス様ですね。イエス様はもともとの最初っから、父なる神様の実の子どもです。

ところがなんと、このイエス様のことを「救い主」と信じる人も、「神の子」にしてもらえると聖書に約束されているのです！ ヨハネさんが書いた福音書の方の12を読んでみましょう。

「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。（「イエス」と言うお名前の意味は「主は救い」です。）

言うなれば、イエス様は神の子どもの「長男」、つまり一番上のお兄ちゃんですが、私たちも神の子どもとされて、イエス様の弟や妹になるのです！ そして天の神様は、私たちのお父さんです！

子どもは愛されている

もしかしたら皆さんは、今まで神様のことを「怖い」とか、「近寄りがたい」と思ったことがあるかも知れませんが、子ども「神の子ども」とされるといふことは、

1月

15日 礼拝メッセージ例

もうそう思う必要は全くないという事なのです。

(例話) 私の母教会は東京にある大きな教会で、当時300人が集まる教会でした。そして牧師先生とも直接お話したことは殆どありませんでした。たまにお話することがあっても、鋭い目で私の罪を全て見透かされているような気がして、恐いような気がしました。

ある時、牧師先生のお宅の食事に招かれる時がありました。私はとても緊張して出席しました。食事のテーブルには、牧師先生の子ども達もいつものようにいました。するとその子たち(特に末っ子)は、牧師先生に寄りかかったり、甘えたような、時にはスネたり、ワガママも言う感じでした。私はハラハラしながら、「そんな口の利き方をしたら、今に怒られるぞ」と思いながら見ていました。でも、そんな心配は要りませんでした。牧師先生の顔は、子どもをいづくしむパパの顔だったからです。

そのように、私たちが「神の子ども」とされるということは、父なる神様にとって私たちは、目に入れても痛くない程に愛する大切な宝物になる、という事なのです。

同じ1ヨハネ3・1にはこうあります、

「私たちが神の子どもと呼ばれるために、御父がどんなにすばらしい愛を与えてくださったかを、考えなさい。事実、私たち神の子どもです。」

イエス様と同じように

父なる神様は、私たちの罪を赦して「神の子ども」とするために、大事な子どもであるイエス様を身代わりに十字架につけ、よみがえらせてくださいました。それは、父なる神様にとってイエス様が一番大切な「我が子」であるのと同じように、私たち一人ひとりの事を「我が子」として愛しておられる、ということなのです！

もし、まだイエス様を「救い主」としてハッキリ信じていない人がいれば、「信じます！」とお祈りしてください。信じることによって、「神の子ども」とされるのです。また、色々なことが不安になったり、自分の大切さが分からなくなった時は、「私は父なる神様に愛されている神の子どもなんだ！」ということを思い出してくださいね。

♪ウォーキング ウィズ ジーザス♪ (イン83)

聖書 Iヨハネ5・1〜5 テーマ 神の子として

序論

(石田高保)

イエス様を受け入れた人が神の子とされていることは、聖書の断言している事実です。では神の子はどのように生きることが求められているのでしょうか。

一、神の子であることを認める

〈イエスがキリストであると信じる者はみな、神から生れたのです〉、私たちが神様から生まれたとは、なんと驚くべき言葉でしょうか。このことは次のみ言葉にも通じています。「その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった」(ヨハネ1・12)。イエス様を受け入れるとは、イエス様により頼む、心の拠り所とする、自分の人生をお任せすることです。イエス様を受け入れたならば、その瞬間に神の子として神の国に生まれます。三位一体の神の家族に迎え入れられるのです。通常、親子の関係は切れることがないように、神の子どもとしての立場は一生継続し、さらに天国に行っても永遠に続きます。子どもとしての出来不出来には関係あり

ません。なぜならクリスチャンは神様から直接生まれたからです。「この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである」(ヨハネ1・13)というみ言葉がそれを裏付けています。親がクリスチャンだから自動的にクリスチャンになるのではなく、自分の選択と決心によってイエス様を受け入れることで神の子になります。家の宗教がキリスト教でなくても全然かまいません。ひとり一人のクリスチャンが直接一対一で神様とつながっているからです。

では私たちは自分が神の子とされていることをどれだけ思うことがあるでしょうか。物心がついた時から自分は神の子であると自覚した人はイエス様を他にして一人もいません。イエス様を受け入れた時に、「あなたは神の子になったのですよ」と教えてもらってわかることです。もちろん人間が思いついたことではなく、聖書に基づく真理です。「これから私があなたの父親になります」と神様が宣言して下さったようなものです。

二、世に勝つ者であることを認める

神様が私たちの父親であるということは、一生を通じ

てその保護を受けるといふことですから、神様は私たちの保護者といふことです。しかしそれにとどまらず、同じ神の子とされた人々を愛するように変えられています。(「生んでくださった方を愛する者はみな、その方から生れた者も愛します」と言われ、神様を愛する人は、ほかの神の子を愛することができます。これは身近な人を愛する力の源が神様にあることを示しています。裏返せば私たちの内側にはその源がないということになります。つまり人を愛するためには、その都度その都度、神様から愛する力を注いでいただく必要があります。愛は物質のように自分の内にため込んだり、蓄えたりすることはできません。

また人を愛するとは神の戒めの究極であると言われていきます。(「神の命令を守ること、それが、神を愛することです」とありますが、それは「どんな戒めであっても、それらは、『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』ということばに要約されるからです」(ローマ13・9))とありますので、つまるところ戒めを守るとは、身近な人を愛することになります。神を愛することと人を愛することとは別々の営みではなく表裏一体です。(「神の命

令は重荷とはなりません。神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝つ勝利です)とあり、神様は私たちが世に勝つ者、つまり好き嫌いや憎しみや無関心などに打ち勝つ者へと造り変えてくださったので、隣り人を愛するという戒めは難しくないので。いや難しいと言って避けることは神の子にふさわしくありません。なぜなら身近な人を愛する愛をいま与えてくださいと神様に求めれば、与えられるからです。ですから私たちは勝利者です。(「世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか」とありますが、次のみ言葉によっても裏付けられます。「世にあつては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました」(ヨハネ16・33))。

結論

イエス様を受け入れた人は神と人とを愛するように造り変えられています。それは人間的な感情を乗り越えるという世に勝つ力をいつでも注いでいただけることです。このような勝利者とされていることを自覚し、身近な人を自分のように愛し、自分を与えてゆきましょう。

研究資料

(加藤 満)

手紙の主題は「永遠の命」である。螺旋形らせんのように、この手紙は再三前に述べた地点に戻りつつ、一歩ずつ前進しつつ検証と議論を重ねていく。その中心部に永遠の命があり、過去に与えられ、現在に宣言され、経験されているものとして(1・2)描かれている。

永遠の命による神との交わりは、実際の生活からかけ離れたものとして描かれない。神に生み出された共同体は、その宗教体験(2・4)と振る舞い(2・10)によって、神に敵対するこの世と特徴的に対置されている。

その上で自らが「神の子」とされている事実の豊かさ
と使命を描いている。

テキスト

1 神から生まれたのです ヨハネの手紙の後半部の主

題は「信じる者達が神から生まれる」ということである。誕生は逆戻りする事ができないものであり、段階的に起こるものでもない。神から生まれた者は正にその理由のために、罪を犯す事を容認されることはない。その方が

ら生まれた者も愛します ここでは普遍的な愛より、出生を同じくする兄弟愛を語っている。ヨハネの手紙における兄弟愛や互いへの愛は、排他的ではないが共同体の仲間の愛を意味している。共同体の愛は、財を困窮している兄弟と分け合う中に明らかにされ(3・17)、愛はこの世と区別を生み出し(3・10)、愛の交わりの内に神が見えるものとなる(4・12)。

2 命令 命令は神を起源とする命令。イエスのみ言葉を行い、愛することである(2・3〜6)。イエスが律法の要求を「神を愛し、隣人を愛する事」に要約して言われた事と重なる(マタイ22・36〜40)。キリストは律法を破棄ではなく成就する為に来られた(マタイ5・17)。このことから分かるように 信仰者は「神学的な真理」(3・5)と「宗教的な確かさ」(3・14)の双方を知る。それは、既に事実となっている事をイエスご自身、または聖霊によって知ることである(2・20、27)。

3 神の命令を守る…神を愛する この二つは同義的に並べられる。命令を守るといふ愛の行いは、神の内住といふ「見えない現実」を確証する見える現実である。神が現臨するのは愛においてであるといふことを示してい

る。

4 …からです」と理由が説明される。それは神から生まれた者が「世」ではなく、世に勝利されたキリストに所属しているからである。「神の子」とされた事實は、信仰者の本性を造りかえ(3・1)、罪からの解放は、特定の行為からの解放に留まらず、罪が信仰者の如何なる場も占領しきることがなく、悪い者が手を触れる事のできない領域に属しているという事を意味しているのである(5・18)。こうして必然的に神から生まれるあらゆるものは、神に敵対している世、御子の救いの対象である世(ヨハネ3・16)に打ち勝つのである。

神の子であるという事實は待ち焦がれている目標でも、将来完全に実現される目標でもない。それは「既に与えられた現実」である。そしてそれは、人の成長途上の未熟さの上に起点を置いていない。「神が生んだ」という神的起源の上にあるのである。

5 イエスを神の御子と信じる者ではありませんか「イエスは神の子(神)である」という告白は「イエスがキリストである」という1節の告白と釣り合いがとられており、御子イエスと御父なる神との関連を証言してい

る(2・23)。

御子イエスが既に世に勝利された(ヨハネ16・33)。そのイエスこそキリストであり、神であると信じる者は、神によって生まれた者であり(5・1)、神の言葉が内に留まり(2・14)、偉大なるイエスの勝利に連ねられ(4・4)、悪の世とは対照的な「愛」に生きる共同体を生み出すのである(4・7)。

ヨハネの手紙を通し、神の救済の行為と人間の倫理的努力に対する要求の間に緊張関係がある。しかし、道徳的な振る舞いは決して神との関係を造り出したり維持したりするものとしては理解されていない。むしろそれは、関係の「実り・試金石」である。神との関係と振る舞いは互いに依存している。ヨハネはその命の豊かさ、その内に自己欺瞞がないかを私達に問いかける。

参考図書 J・D・G・ダン編 山岡健訳『ヨハネ書簡の神学』(新教出版社)、津村春英著『ヨハネの手紙一の研究』(聖学院大学出版)、他

聖書 エペソ2・19〜22

タイトル 神の家族とともに

暗唱聖句 あなたがたは、もはや他国人でも寄留者

でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、

神の家族なのです。 エペソ2・19

目標 神の家族の一員として生きる。

導入

(土屋開夫)

今日のテーマは、「家族」という事です。ところで皆さん、「家族」って何だと思えますか？ 「家族」って、どういう関係だと思いますか？

え？ 携帯電話でただ（無料）で電話が出来る関係？ まー確かにそういうサービスもありますけど、言わば、それは携帯電話で結ばれた「携帯家族」ですね。

でも確かに、「家族」というのは「何かで結ばれた関係」と言えるでしょう。その家族が「何で」結ばれているのか？ そこが大事なところです！

神の家族

一般的な家族の事で言うと、まずお父さんとお母さん

の関係は「夫婦関係（婚姻関係）」です。そして、その同じお父さん、あるいは同じお母さんをもつ子ども達は、「親子、兄弟の関係（血縁関係）」です。簡単に言うと、夫婦、親子、兄弟の関係が「家族」です。

けれども、今日の本日のテーマは「神の家族」です！ 「神の家族」とは一体、何で結ばれた家族なのでしょう？

父によって

それはまず、

①「神の家族とは、同じ天のお父様の子どもたち」という事です！

同じお父さんの子どもなのですから、皆、家族であり、兄弟姉妹です。教会でよく大人の人たちが「兄弟姉妹」って言ってるでしょ。（最近あまり言わないかな。）

先週のみ言葉とお話を覚えていますか？

「イエスがキリストであると信じる者はみな、神から生まれたのです。」（Iヨハネ5・1）

父なる神様の実の子であるイエス様を「救い主」と信じる人は、「神の子ども」とされる、という約束でしたね。イエス様を信じることによって、同じ神様を「お父さん」

と呼ぶ、「神の子ども達」「神の家族」に、私たちはして
いただいたのです！

み子によって

次に、今言った通りですが、

②「神の家族とは、同じイエス様によって救われた者たち」という事です！

教会の色んな集会で、あるいは教会のキャンプで、全く初めて会う人でも、その人も同じイエス様を信じている人だと分かると、初めて会ったのに、一緒にイエス様のお名前を心合わせてお祈りができます。学校や会社でそんな事はないでしょう。それは、「この人も同じイエス様によって救われた神の家族だ。」と思うからです。不思議ですね。一緒にお祈りできるのが「神の家族」です。

聖霊によって

三つ目、

③「神の家族とは、同じ聖霊様によって永遠の命を与えられた者たち」という事です！

聖書全体を読むと、聖霊様は「いのちを与えてくださる」という事が分かります。「いのちの息」「水」「風」「炎」にも例えられています。いづれも「いのちを与える」働きです。聖霊様は、復活のイエス様のいのちを信じる一人ひとりに与えて、神の子どもとして新しく生まれさせてくださるのです！

まとめますと、「神の家族とは、父なる神様の愛、イエス様の十字架、聖霊様のいのち、によって結ばれた者たち」ということです！ 18節にこうあります、

「このキリストを通して、私たち二つのものが、一つの御霊によって御父に近づくことができるのです。」

祈ろう

神様の本当の願いは、世界中の全ての人が、父・み子・聖霊によって結ばれ、愛し合う「神の家族」となることです！ でも、今は特に世界中の人々が憎み合ったり、争うことが多いのです。イエス様を中心にして全ての人々が「神の家族」となるように祈りましょう！

♪ファミリートゥ(PW37)

聖書 エペソ2・19〜22
テーマ 神の家族とともに

序論

(石田高保)

神様は、すべての人が神の子となることを願っております。誰でもイエス様を受け入れることによって、神の子となることができます。しかし生まれた子どもが健全に育つために家族が必要のように、神の子とされた人にも、神の家族が必要です。神の家族とは、共に神を愛し、互いに愛し合うクリスチャンのコミュニティ、つまり教会のことで、「神の家族」という言葉は聖書ではこの一か所しか出てきません。

一、神の家族に迎え入れられる

まず神の子とされる方法です。そもそも、なぜ神様は人間を神の子としようとするのでしょうか。それは神ご自身の中に、父、子、聖霊の三位一体という家族関係を持っておられ、その中に私たちを招き入れ、すべての良いものを私たちと分かち合いたいと願っておられるからです。C・S・ルイス曰く「三位一体の関係は、人間の親子や夫婦とは違うが、人間の家族関係の由来である」。

しかしすべての人が初めから神の子なのではなく、イエス様を受け入れることによって神の子とされるのです。また神の子の特権は何でしょうか。神の子として生まれ変わった人は、神の家族として受け入れられます。(あなたも)は、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。そして永遠に残る相続財産を受け継ぎます。さらに神の子であるしるしは何でしょうか。それは洗礼であり、信じた人に神の下さるプレゼントです。洗礼にはおおよそ次のような意味が込められています。①洗礼をとおして罪の赦しを確認します(洗礼を受けることによって救われるわけはありません)。②自分の信仰を公に宣言する。ちょうど生涯連れ添うことを決心した男女が結婚式を挙げることによって社会に受け入れられ、結婚が動かぬ事実となるように。③古い自分に死にキリストにある新しい命に甦ったことを表明します。このようにイエス様を受け入れた事実が心に刻まれます。

二、神の家族として関わり合う

神の家族は血縁をしのぎます。クリスチャンはお互いに対して、父、母、兄弟、姉妹、言うならば、キリスト

の血による血縁者です。「ご覧なさい。わたしの母、わたしの兄弟です。だれでも神のみこころを行う人、その人がわたしの兄弟、姉妹、母なのです」(マルコ3・34〜35)。私たちの肉親もそうですが、神の家族は、神が知恵をもって私たちの周りに置いて下さっているコミュニケーションです。しかも地上だけではなく、永遠に続くのです。日本人は血縁関係を重んじます。神の家族は血のつながりを軽く超えています。不思議と初対面のクリスチャンでも、懐かしさを感じることがあります。ですから私たちは単に自分の霊的な必要を満たすためにだけに集まるのではなく、神の家族と聖徒の交わりを持つためにも集まるのです。

また神の家族は少人数を単位とします。教会全体の礼拝という、いわば大家族だけでは、人は十分にケアされません。親も兄弟もはつきりしないような家族で育ったという人はいないでしょう。神の子が健全に成長するためには、プライベートで親密な小グループという核家族も必要です。むしろ少人数の人間関係の中でこそ、愛の実践を行いやすいのです。聖徒の交わりはキリストに似た者として成長するためにも欠かせない要素です。「子

どもたち。私たちは、ことばや口先だけではなく、行いと真実をもって愛しましょう。」(1ヨハネ3・18)。牧師から霊的なケアを受けるだけにとどまらず、自立したクリスチャンとして互いに牧会し合ひましょう。

さらに神の家族は外向きです。クリスチャン同士が神の家族として受け入れ合い、愛し合い、仕え合うことは、クリスチャンでない家族を愛して行くための備えともなります。「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい」(ローマ13・9)。身近な人を救いに導くためにも、神の家族と関わることは大事です。むしろ神の家族で愛し合うという訓練を通して、身近な人を愛して行くことができます。特に家族を導こうと思ったら、家族が自分以外のクリスチャンと親しく接することが有益です。

結論

神の国は、神の子たちが愛し合う空間です。教会は、天国での生活に備えて、互いに愛し合うことを身につける関係でもあります。私たちは永遠に続く神の家族の交わりに入れられているのです。こうして与えられている教会という神の家族を、その名前にふさわしく、行いと真実とをもって関わり合って行くことではありませんか。

研究資料

(宮澤清志)

今週のテーマは「神の家族とともに」である。先週のメッセージを通して、イエスをキリストと信じる者はみな神から生まれたと語られた。であるならば、私たちは神の家族として生きる特権が与えられているのである。本日の説教では、そのことを確認したいと思う。

テキスト

19 こういうわけで 前節までの言葉を受けて。すなわち、本章1〜13節は、神から遠いものであった「あなた」が「異邦人が、イエス・キリストに結びつくこと」によって近い者となったことを語り、15節からかその結果としての「神との平和」について語る。その結果、「あなたがた」は「神の家族」なのである、というのである。他国人 文字通り「外国の人」という意味の言葉。寄留者 「家のかたわらの人」というような意味の言葉であり「隣人」を意味する。その国の中に住まいを持ちながら、国籍や市民権のない人を指して用いられる。ここでは、「異国人」も「宿り人」もあまり区別はなく、イスラエルの国籍(12)のない者の意味であろう。家族 とは、こ

では、「一つ家の中に住む人々」を指す言葉である。この言葉は、核家族時代の日本の事情とは異なり、肉親に限らず幅広く「親族」も「親友」も指すことのできる言葉である。同時にこの言葉は、新約聖書では1テモテ5・8「もしも親族、特に自分の家族の世話をしない人がいるなら、…」でも用いられていること、厳密な意味で「家族」として用いられていることからすれば、パウロはここで、異邦人キリスト者も真の意味での「神の家族」である、と語っているのである。

20 ここにきて、パウロは「聖徒たち」(19)を建物にたとえて、その構造を「土台」と「要の石(礎石)」として語る文章である。

まず、この節の中心である「土台」と「要の石」についてである。「土台」とは、建物の底部にあつて、その建物を支えるものであり、その建物の基礎部分を指すものである。一方「要の石」とは、他の聖書においては様々に訳されている言葉であり(新改訳聖書第三版は「礎石」、新共同訳は「かなめ石」など)、建物の要の石として、その建物を完成させるためにはなくてはならない最も重要な石である。特に、当時の建築においてはまず始めに隅

に親石を置いて、そして礎石、そして次々に石を組み合
わせ、そして最後に「要の石」をはめ込んだようである。
ここで「わたしはアルファであり、オメガである」(黙示
録22・13)というみ言葉を理解したい。キリストなくし
ては建物はバラバラになり、それ自体が成り立たないの
である。

次に、「土台」としてたとえられている「使徒たちや預
言者たち」とは、新約時代の使徒たちや預言者たちであ
ると理解されている(エペソ3・5、4・11参照)。しか
し、この当時はまだ新約聖書は完成されておらず、「土台」
とは「使徒たちや預言者たち」の働き、宣教の内容とい
うことができる。

しかし、ここにおいてはそれ以上にその「土台」の中
心である「要の石」が、より重要な位置を占める。すな
わちそれは「キリスト・イエスご自身」ということにな
る。このことは、すでに旧約聖書によって預言されてい
たものであった(イザヤ28・16、詩篇118・22等)

21 このキリスト 前節にある「キリスト・イエスご自
身がその要の石です」というみ言葉を受けている。要の
石であるキリストによって、21、22節に語られているこ

との一切が実現・成就するのである。建物の全体 もと
の言葉からは、「その建物の全体」と「あらゆる建物」と
いう両方の訳が可能であるが、「建物の全体」という訳の
方が主流である。組み合わされて 建物のいろいろな部
分部分が「組み合わされて」、その建物全体を構成してい
る、という意味に理解できる。なお、この言葉の直訳は
「ともに関節になる」という言葉である。関節は、単なる
節目やつなぎ目ではなく、力を伝えるための人体にとつ
て欠くべからざる大切なものである。

22 ともに築き上げられ 「組み合わされ」(21)の言い
換え。御霊によって ここではいくつかの訳がなされて
いる。①「霊的に」という意味。霊的な住まい、という
理解ができる。手で造られたユダヤ教の神殿との対比の
中で語られている言葉。②「御霊によってともに建てら
れ」という意味。キリストにあって成長し、御霊にあって
建てられる、という理解となる。③「御霊によって」
これは、御霊という形で神が住まわれる、という理解と
なる。

参考図書 榊原康夫著「エペソ人への手紙(上)」、(いの
ちのことば社)他

聖書

タイトル

暗唱聖句

ヨハネ13・34〜35
互いに愛し合おう

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

ヨハネ13・34

目標

神に愛されている者として、互いに愛し合おう生き方を身につける。

導入

(飯田勝彦)

新しい年もあつという間に一ヶ月が過ぎます。新年に決意したことは続いていますか？ 続いていけば神様に感謝し、そうでなければ今日から新たに始められるように祈りましょう。

皆さんはこれまでみ言葉やお話して「互いに愛しましょう」ということをよく聞いてきたでしょう。それは互いに愛し合うことはとても大切なことで、私たちが幸せになることだからです。互いに愛し合うことに取り組む人は、心が成長していきます。愛し合う生き方を今から身につけて行きましょう。

新しいいましめ

イエス様は弟子たちに「わたしはあなたがたに新しい戒めを与えます」と言われました。「新しい」とは、これまでとは違ったものです。イエス様はどんな新しいことを教えて下さったのでしょうか。それは「互いに愛し合いなさい」でした。「な〜んだ。それなら今までも聞いてきたよ」と思うかも知れません。確かに、旧約聖書にも「自分を愛するように隣人を愛しなさい」と書いてあります。ですから、他者を愛するとは決して新しい戒めとは感じないでしょう。

でも、イエス様は「新しい戒めを与えます。互いに愛し合いなさい」と言われました。旧約聖書にある愛しなさいと、イエス様が言われる新しい戒めとはこれまでの愛するの意味と、どこが違うのでしょうか。これまでの愛する規準は人間の方にありました。でも、新しい戒めの規準は、イエス様が愛されたように愛することだったのです。

愛する力

「互いに愛し合いなさい」をクラスの中で、家族で、地域で、習い事をしている場所で実践したらどんなに素晴らしいことが起こるか想像してみましょう。あなたの

家族が互いに愛し合えたら食事の時間がどんな雰囲気になりますか？ また、あなたの学校のクラスのみんなが互いに愛し合えたら、クラスはどんな雰囲気になるでしょうか。毎日、互いに愛し合っているクラスにはどんな気持ちで行くでしょうか。互いに愛し合っている姿をイメージするだけでもワクワクします。

「互いに愛し合いなさい」と聞くと「分かっているけど、出来ない」という思いになりませんか。すぐに嫌な人の顔が浮かび「無理むりー」と心の中で叫ばないでしょうか？ 「互いに愛し合う」ことは決して簡単なことではありません。私たちには隣人を愛する力はありません。「わたしには人を愛する力はありません。イエス様助けてください」と認めることが大切です。

イエス様が「互いに愛し合いなさい」と言われたとき、とても大切なことを言われました。それは「わたしがあなたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」と。「わたしがあなたがたを愛したように」です。まず人を愛する前に皆さんがこれまでイエス様からどのような愛されたかを知ることが大切です。イエス様はみんなをこれまでどのように愛してくださったかで

でしょうか？ 少し思い出ししてみましよう。辛いときや悲しいとき、イエス様は御言葉を通して励ましてくださったのでしよう。イエス様に「助けてください」とお祈りしたとき、イエス様は具体的に助けてくださったのでしよう。寂しいと思ったとき「わたしはいつも共にいるよ」と慰めてくださったのでしよう。友だちとケンカしたとき、イエス様は自分の悪かったところを示してくださり、悔い改めさせてくださったのでしよう。そして、自分から友だちに謝ることができるようになってもらったことがあったかもしれません。

ある時は、テストや発表会で緊張していた心に、イエス様は平安を与えてくださったのでしよう。私たちはどれだけイエス様の愛を体験して来たのでしょうか。愛する秘訣は、イエス様から受けた愛が力となります。

まとめ

互いに愛し合うことは一人ではできません。イエス様の愛を知っている教会のお友だちや教会の方々と実践してみましよう。その中で愛する生き方が身についてくるのです。

♪あいをください♪(ホ78、イン67)

聖書 ヨハネ13・34〜35 テーマ 愛によって

序論

(小泉 創)

皆さんが、人生で大切にしておられることは何でしょうか。イエス様が十字架におかかりになる前の夜、弟子たちに新しい戒めを与えられました。それは、私たちひとりひとりが大切にすべき戒め(教え)です。

一、新しい戒め

イエス様が新しい戒めとして弟子たちに語られたのは、「互いに愛し合いなさい」ということでした。私たちにはどうにも相性があわない人、苦手な人がいるかも知れません。また、好きな人に対しても、その時の気分分左右されることもあります。「愛している」という言葉を使いながら、実際は相手を傷つけていたり、どこかで見返りを求めていることだってあります。罪人は、自己中心的にねじ曲がってしまっています。限界がある私たちに、イエス様は「わたしがあなたがたを愛したように」とお示しくださいました。愛する、とは大切にするということです。イエス様が私たちを大切にしてくださいましたよう

に、私たちも互いを大切にするように、命じられています。

二、わたしがあなたがたを愛したように

私たちの愛の根本はイエス・キリストです。イエス様は、私たちをどのように愛してくださいましたでしょうか。

弟子たちはイエス様と一緒に歩んできた日々を通して、イエス様の愛を見聞きし、経験してきました。罪人たちの友となり、病気や障碍しょうがいを持った人々の孤独、つらさを癒し、多くの者たちに慰めを与えられました。弟子たちもこの夜、イエス様に自分たちの足を洗っていただきました。尊いお方が、しもべのように身をかがめて足の汚れを落としてくださったのです。

そして彼らは十字架におかかりになるイエス様のお姿を通して、愛の神髄を知ることになります。それは全てをささげる愛です。正しい人、善良な人のためでなく、罪人を愛し、ゆるし、ご自分の命すべてを投げ出される姿です(ローマ5・7、8)。ヨハネは、キリストの十字架の姿を通して、「それによって私たちに愛が分かったのです」(1ヨハネ3・16)と告白しています。パウロが1コリント13章「愛の章」で描いている愛も、イエス・

キリストを通して実現したものです。そのような愛に、私たちも憧れます。

三、キリストの弟子であると認められる

イエス様は弟子である私たちが互いに愛し合うならば、わたしたちがキリストの弟子であることが認められると教えられました。愛し合う、ということが神の恵みなしにはなしえないからでしょう。教会は「聖人」の集まりではありません。「罪ゆるされた罪人」の集まりです。互いに愛し合おうと思いつつも、時に見当違いであったり、足りなかつたり、おせっかいすぎて嫌がられることもあり、勇気が出ずにひるんでしまう時もあるでしょう。

それでもイエス様が愛してくださったように、私たちが愛そうとするなら、そこに神の助けが与えられ、キリストの弟子としてあかしすることになるということです。私たちは教会がもつと影響力をもち、脚光をあびるような働きができたら宣教が進むと考えます。しかしイエス様が私たちに求めておられることは、私たちが互いに愛し合うことです。失敗してあきらめたくなる思いを乗り越えて、愛し合えるように主の助けを求めましょう。

一人の若い姉妹が、教会学校での教え方をしくじって多くの人を傷つけてしまいました。そのため、他の教員から教師をやめるようにという嘆願書を受け取りました。姉妹はとても傷つき、教会にも行けないと思いましたが、しかし牧師に勧められ、嘆願書を出した兄弟たちのために祈りはじめました。そのためには、神の特別な恵みが必要としました。求道者であるその夫は、妻への仕打ちを聞いて憤慨していましたが、このことを通して、救いにあずかったのです。「私は妻のことを聞いてから、怒りと憎しみで逆上していました。しかし妻は、毎晩彼ら一人一人のために祈るんです。妻の祈りをいらいらして聞いていたとき、その祈りは私のためにも必要だと思ったのです。『僕のために祈ってくれ。僕こそ神様の恵みが必要なんだ』。妻と並んでひざまずいて、私はイエス様を心にお迎えしました」（デニス・キンロー、「キリストの心で」より）。イエス様が示してくださったゆるしの愛が、この姉妹を通してあらわされました。

結論

主イエス様のように、私たちも互いに愛し合い、主の弟子として歩めるように主の助けを求めましょう。

研究資料

(小平徳行)

神の民には、多くの律法が与えられていたが、イエスは、ここでただ一つの戒めを提示された。「互いに愛し合いなさい」との戒めは、イエスが十字架にかかられる前日、最後の晩餐の時に語られた。これはイエスが「この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たこと」を悟り、弟子たちを「最後まで愛された」場面である(13:1)。この日、イエスは弟子たちの足を洗い、手本を示され、またユダは晩餐の席を立って、イエスを捕える準備のために出て行った。このような事が背景にある中で語られたのがこの戒めであった。

テキスト

34 新しい戒め 「新しい」とは、「これまで一度も語られたことも聞いたこともない」とか「従来とは異なっている」という意味を表す。隣人を愛することは、旧約時代からの戒めであった(レビ19:18等)。ここでイエスは、なぜ「新しい戒め」と言われたのだろうか。ヨハネも、互いに愛し合うことは、古い戒めでありつつも、新しい

戒めとして(1ヨハネ2:7-8)。「わたしがあなたがたを愛したように」ここに新しさの内容を見ることが出来る。この新しい戒めは、かつての戒めに比べて、要求されているものが、非常に高くなっている。レビ19:18では「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」とあるように、この愛の基準は人間が自分自身を愛する愛であるのに対し、新しい戒めのそれは、イエスが人間を愛する愛である。ギリシャの古典では「愛」を「エロース」や「フィリア」という語で表現してきた。しかしここでは「アガペー」が使われている。それは、イエスによって表された神の愛を、人間的な愛と区別するためであった。人間的な愛は、自分を愛してくれる者を愛するなど、どこかに利己的なもの、打算的なものを含む。また親子の愛は、どんなに強くても限界がある。親であるから、子であるから愛するという条件付きのものである。しかし、イエスは罪深い人間のために、ご自分のいのちを捨てて、むじ惨たらしい、十字架刑を受けて下さった。敵さえも愛する、無条件の、無限の愛である。イエスは、そのご生涯において、苦難を通して、このような愛を實踐されたゆえに「わたしがあなたがたを愛したように」

という、これまでにない、新しい愛の戒めを与えられた。それは、先にイエスが弟子たちの足を洗い、「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようになる」と手本を示されたことを通しても命じられている。

また、この戒めの新しさは、新しい契約と関連している。私たちは、神の愛はおろか、人間的な愛においてさえ、十分に行うことができないような者である。この新しい戒めは、生来の人間の力で全うできるものではない。しかし、イエス・キリストを通して結ばれる新しい契約により、神の民は、律法が心のうちに書き記され、霊が新しくされ、聖霊によってその戒めを行うことができるのである（エレミヤ31・33、エゼキエル36・26、27）。ユダが席を立つて出て行った時、イエスは「今、人の子は栄光を受け」と言われた（31）。このユダの裏切りは、キリストの十字架の死と復活という、神による人類の救いのみわざの実現、新しい契約へと進む契機となった。ゆえにこの時に、イエスは「ご自分の時」が到来し、新しい時代の始まりを自覚されて、「新しい戒め」を与えられた。

35 互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるよ

うになります。このように言うことによって、イエスは弟子たちが互いに愛し合うことの重要性を強調している。この戒めを守り行うことは、イエスの弟子であることを示す特徴である。なぜならイエスの戒めを守るとは、イエスを愛すること（14・15、21）、イエスの愛にとどまっていることの確かな証拠だからである（15・10）。ここにキリストの教会のあるべき姿が示されている。もし信者同士の間には愛がなければ、世に対する彼らの証しは無効となり、偽善者であることを明らかにすることになる。また、互いに愛し合うことは、ヨハネの手紙第一では、異端（グノーシス）に対して、正統な信仰の基準の大切な要素とされている。ただし、イエスの弟子であるとの外の人々から認められることは、互いに愛し合うこととの目的ではなく、あくまでも結果である。

参考図書 高橋三郎『ヨハネ伝講義 下』（待晨堂）、由木康『イエス・キリストを語る』（講談社学術文庫）、G・R・オデイ『NIV新約聖書注解5・ヨハネによる福音書』（ATD・NTD聖書注解刊行会）、Colin G. Kruse, John (The Tyndale New Testament Commentaries) 他

聖書

ダニエル 1・8〜16

タイトル

ダニエル① 汚れから離れる

暗唱聖句

ダニエルは、王が食べるごちそうや王が

飲むぶどう酒で身を汚すまいと心に定め

目 標

た。
ダニエル 1・8
汚れに満ちた世にあつて、きよい生き方を
守る。

導入

(和田牧子)

今日の聖書箇所の中に「神は、ダニエルが…恵みとあわれみを受けられるようにされた」と書かれています。神さまはわたしたちに良いものをあたえ、いつも気にかけて、助け守ってくださいる方です。とつても苦しい中でもともにいてくださる方です。ダニエル書を読むとそのことがよくわかります。

異国に連れて行かれても

今から二千五百年以上も前の旧約聖書の時代のことです。南ユダ王国は造り主なる天の神さまから心が大きく離れ、好き勝手に偶像を拜んだり、お金や欲に心がいっぱいになっていました。そしてついにバビロン王国の王

ネブカドネツアルの軍隊が攻めてきて、ユダ王国は滅んでしまったのです。ユダの人々は自分の国を離れバビロンという外国に連れて行かれてしまいました。

バビロンの王さまの命令でユダの人々の中から、特別に知恵があり、役に立ちそうなくれた若者たちが選ばれました。その若者たちの中にはダニエル、ハナンヤ、ミシャエル、アザルヤがいました。まだ10代半ばの若者だったようです。

3年間訓練を受けて王にすっかり仕えることができるようにと、王さまが食べるごちそうやぶどう酒から毎日彼らが食べる分がわりあてられました。それはそれは大ごちそうだったでしょうね。けれどもそれらは偶像にさげられた後の食べ物でした。ダニエルたち4人は、神さまのまえに忠実な若者だったので、自分たちの世話役の長に「そのようなごちそうを食べて身を汚さないようにさせてください」とお願いしました。世話役の長は「何をこしゃくな！」と激怒したでしょうか？ いえいえ、神さまが働いてくださって、ちゃんとダニエルたちに優しい心をもって接するように導いてくださっていました。

守られたダニエルたち

世話役の長はダニエルのお願いにたいして答えました。「わたしは王さまを恐れている。もし王さまの定められた食事を食べないで、あなたがたの顔色が他の少年たちよりもすぐれなかったら、わたしは王にしかられ、クビになるかもしれない。」そこでダニエルは言いました。「どうか10日間、わたしたちを試してください。わたしたちに野菜と水を与えてください。そのあとわたしたちの顔色と、他の少年たちの顔色をくらべてみてください。そのうえで判断してください。」この申し出はうけいれられました。

さて10日が過ぎて、どうなったでしょう。あれれ？不思議なことにダニエルたち4人の顔色は、王のごちそうを食べているどの少年よりもつやつやとし、からだつきも立派だったのです！それで世話役も納得し、ダニエルたちに野菜と水だけを食べさせることに決めました。こうして彼らは神さまのまえに汚れているものから身をさげ、外国にあっても自分の大切にしている信仰をつらぬくことができたのです。

身を汚すことって？

実はこの世話役の長はダニエル4人にバビロンの偶像

にちなんだ新しい名まえを与えたのです。でもダニエルたちは新しい名まえは受け入れたのです。しかし王さまから与えられる食べ物に関しては、「身を汚すことだ」と考えて、決して食べないと心に決めたのです。

彼らはまだ若者でしたが、母国である南ユダ王国に住んでいたころから、それぞれがただおひとりのどこまでも愛してくださる神さまと出会っていました。神さまと深く交わり、神さまのみこえを聴きながら歩んでいたのです。ですから何が良くて、何が悪いかも神さまが教えてくださいました。またそのほかの知恵や能力も神さまによるこぼれるように使いたいと思っていたのですね。

結び

わたしたちの周りには、聖書の神さまとかけ離れた習慣や考え方がたくさんあります。お友だちと遊んだり、おしゃべりをしていても、「こんなことしていいのかな？」と心がいたむようなときはありませんか？「神さまどうしたらいいですか？」とお聴きしてみましよう。神さまはダニエルたちを助けてくださったと同じように、良い解決の方法を教えてくださいます。

♪歩こうイエスの道を♪(PW15、イン81)

聖書 ダニエル 1・8～16
 テーマ ダニエル① 汚れから離れる

序論

(高橋頼男)

ユダの王エホヤキムの治世に、バビロン王ネブカドネツアルがエルサレムを攻め、神の宮を荒らしました。また、ネブカドネツアルは、ユダの高貴な出で、優れて有能な若者たちを、王の下で仕える官吏として登用するため、バビロンに連れて行きました。その中に、ダニエル、ハナンヤ、ミシヤエル、アザルヤの四青年がいました。彼らは三年間、バビロンの国を支える官吏として王の保護のもとに養いと訓練を受けることになりました。そのため彼らは改名を余儀なくされ、バビロンの言語、文化、習慣に馴染んでその民の一員となること、すなわち文化的、宗教的同化を求められました。これは、彼らにとって厳しい信仰の闘いを強いることになったのです。

一、四青年の信仰

彼らは国が傾き不信仰と反逆によってもはや滅ぶほかない祖国において、ヨシヤ王の宗教改革や、エレミヤの預言から、少なからず信仰の影響を受け、神を畏れ、純

粋で熱心な信仰を持っていました。しかも、若い(十代の半ば)うちにそのような信仰が育っていたのです。彼らは捕囚の身として異邦の地に連れて行かれ、孤独と屈辱を受けながら、異教国の現実の中にしつかり留まり神の取り扱いを受け、神を仰いで勝利していくのです。

今、どこの教会でも子どもたちや若者たちが少ないことが課題となっていますが、少数でも子どもたちがいることは素晴らしいことです。彼らが不信と汚れ、偶像礼拝が支配する混沌としたこの世にあつて、真に神を畏れる者となり、勇氣と情熱を持つ神のしもべとして育っていくなら、教会には大いなる可能性があります。若い日にも言葉が打ち込まれ、愛と祈りの育みの中で彼ららしつかりと養われることができるよう教会全体で取り組んでいきたいものです。

二、食物で自分を汚させないよう求める

彼らは王の食卓から出る食物で養われていましたが、王の食卓の食物を食べることによって身が汚れることを避けるため(あるいは世俗の雰囲気汚されないように)、水と野菜だけを求めました。世話係の宦官の長は、野菜だけの食物で体が健やかに維持できなければ自分が

王からとがめを受けると心配しましたが、彼らは自分たちに好意を示す宦官の長や世話役の立場を理解しつつ、決して妥協しませんでした。そして二週間の期限を設け、野菜だけを食べることにより健康がそこなわれるかどうか、試して欲しいと提案しました。彼らは、このことに関して神が必ず道を開いてくださることを信じました。

彼らはバビロンの異教世界のすべてを拒絶したわけではありません。彼らの名が、偶像の神々にちなむ名に変えられたとき、彼らはそれを受け入れました。それは、決して好ましいことではなかったのですが、彼らがバビロンの異教の世界の中で生きていくために必要なこととしてあえて受け入れたのです。しかし、彼らは王の食卓から出る食物を食べることにについては、身が汚れると判断しました。そして、これを拒み、それに代わる方法として水と野菜を食することを申し入れたのでした。

私たちもまた、異教社会にあつて偶像礼拝が当たり前に行われ、宗教文化への同意が当然のように求められませんが、その風習、文化、習慣の本質をよく理解した上で、受け入れるべきものと拒むべきものとを言葉によって精査し、祈りをもって判別すべきでしょう。また、知恵

が与えられ良い解決策が与えられるよう求めましょう。あれが、これが身を汚すかもしれないいつも恐れを抱きながら生活するのではなく、判断したすべてのことについて信仰によって大胆に生きるべきです。

十日たったとき、彼らは誰よりも血色がよく、健康であることが証明されました。それで、彼らは、王の食卓から下るもので身を汚すことなく、水と野菜を食して生活することができました。

この世で、神の前にきよく生きることには至難のわざです。しかしダニエルは神を現実の生活の中に体験し、生ける神への礼拝と信仰を生活の中心に置きつつ、取り巻く現実を受け入れ、かつ、きよく汚れない生き方を全うし、その時代と環境の中で神と人に仕えたのです。

結論

ダニエルは、キュロス王の元年まで、約70年にわたりバビロン、メディア・ペルシアの王に仕えました(21)。一人の神のしもべが、歴史の主権者である神への信仰を貫き、その時代環境の中で、きよく真実に生き抜いたことは、私たちにとって大きな励ましです。この時代にあって神の前にきよく生きましょ。

研究資料

(金井由嗣)

ダニエル書の歴史性と統一性

二〇一三年10月6日の「研究資料」を参照。

文学類型、言語、構造、中心思想

本書には、知恵物語、預言、黙示の要素が同居している。旧約諸文書においてこの三要素は互いに密接に関係している。本書の冒頭(2・4前半まで)と末尾(8章以降)はヘブル語、中間はアラム語で書かれている。この構成はよく考え抜かれたものであり、本書は全体にわたってよく練られた構造を示している。その中心メッセージは、地上の権力の興亡とそれに伴う暴力にもかかわらず神は歴史の主権者であり続け、神の民は苦難を通らされるが最後には主の勝利に連なる者とされる、ということである。

テクニスト

8 王が食べるごちそうや王が飲むぶどう酒で身を汚すま
いと バビロニア王の宮廷で食べる「ごちそう」(〔ハ〕パト
バーク。協同訳は「食事」、新共同訳は「肉類」と訳す。元
はペルシャ語で、旧約聖書ではダニエル書に2回出てくる
のみの特殊な用語)は旧約律法の規定からは遠かった。し

かし「酒」(ワイン)に関しては、特に律法に違反する心配はない。律法上の汚れ以上に、ここでは宮廷の宴席に連なることが王権への精神的服従を意味することが問題であった。この単語のもう一つの使用例である11・26では「彼のごちそうにあずかる者たち」が王を裏切ることを、本来あり得ないことを起こす「計略」と呼んでいる。また王宮の食事はまず異教の神々に献げられたことから、それを食べることは偶像礼拝への参加と見なされた(山口)。古代オリエントを代表する叙事詩「ギルガメッシュ物語」には、野獣と共に生きる強者がごちそうを食べ酒を飲むことで野性を失い懐柔される場面がある。「カルデア人の文学とことばを教える」(4)ことと合わせた文化的同化の手段である。ダニエルたちは職業のための学習は受け入れたが、全存在を王の支配下に置くことは拒否した。異教の神々の名前を含む改名を抵抗なく受け入れた(7)彼らが、飲食には断固とした態度を取ったことに注意すべきである。豊かさや安逸な生活と引き換えに精神的服従を要求するこの世の力は、あからさまな偶像礼拝以上に警戒すべきものである。

宦官の長 古代の王朝において、宦官(去勢者)が王者の身の回りの世話や子どもの養育を担当することは一般的

だった。子どもに詳しく説明する必要はないが、「王様の身の回りの世話をする役目の人」との説明があっても良いかもしれない。

9 恵みとあわれみ 恵み〔へ〕ヘセド、「いつくしみ」「真実の愛」とも訳される）は契約に基づく神の変わらない真実な態度。あわれみ〔へ〕ラハーミーム）は肉親など親しいものに向けられる深い愛情を表す言葉である。この二つはしばしばセットで現れる。主はイスラエルにあわれみと豊かな恵みを与え（イザヤ63・7）、イスラエルは主の恵みとあわれみを賛美した（詩篇103・4、8）。しかしイスラエルが主に背き続けた結果、主はイスラエルから恵みとあわれみを取り去られた（エレミヤ16・5）。その結果がバビロン捕囚である。しかし、ダニエルたちのように主に真実に従う者には、主は変わらず恵みとあわれみをもって接して下さる。そのような信仰と悔い改めが神の民全体に及んだ時、再び主の恵みとあわれみが民を集め、国を回復されるのである（イザヤ54・7～8）（以上TWOT、THAT参照）。この個所では、神に由来する「恵みとあわれみ」が異教徒である「宦官の長」を通して実現したことが強調されている。原文の直訳は「神は、宦官の長の前でダニエルに恵み

とあわれみを施された」であって、あくまでも「恵みとあわれみ」を注ぐ主体は神である（協同訳参照）。

11 世話役〔へ〕メルツァル。アッカド語に由来する単語（口語訳では「家令」）。ダニエルたちの世話をするために付けられた直接の担当者である。

12 しもべたたち 直訳は「あなたのしもべたちを」。異教徒の管理者に対するダニエルの謙遜な姿勢に注目すべきである。偶像礼拝を強要するこの世の権力への抵抗は、同様に権力の支配下にある人や組織への攻撃となってはならない。ダニエルたちは支配者のルールを重んじつつ、自分たちの信仰を守り通すために神から与えられた知恵を用いた。彼らの提案の根底には、命と健康は食べ物ではなく神御自身に由来する、との信仰がある。

参考図書 J・G・ボールドウィン（ティンデル）、W・S・タウナー（現代聖書注解）、千田次郎（新聖書講解シリーズ）、山口昇（新聖書注解）、『古代オリエント集』岸本通夫他『世界の歴史2 古代オリエント』Keil & Delitzsch, *Theological Wordbook of the Old Testament* (TWOT), *Theologisches Hand-wörterbuch zum Alten Testament* (THAT).

聖書

ダニエル3・8〜25

タイトル

ダニエル② 三人の若者たち

暗唱聖句

たえそうでなくても：私たちはあなたの神々には仕えず、あなたが建てた金の像を拜むこともしません。

目標

ダニエル3・18
神の守りを信じつつ、どんなことがあっても神にのみ仕える者となる。

導入

(和田牧子)

先週はダニエルとその仲間たち3人が、バビロンの王ネブカドネツアル王さまのさだめたごちそうではなく、野菜と水しか食べなかったのに、顔色も良く元気いっぱいだったお話でした。バビロンの国にはほんとうの神さまから引き離す誘惑がたくさんありましたが、そんな中でも信仰を守りとおした人たちがいました。今日は先週の続きのお話です。

ネブカドネツアル王さまの命令

ネブカドネツアル王さまは、国民をひとつにし、自分の力が強大であることを知らせるために金の像をつくり

ました。その幅は3メートル、高さは26メートルもありました。25メートルのプールの長さを思い浮かべるとその大きさがよくわかりますね。そして王さまに仕えるすべての役人たちを集めました。王さまの命令が高らかに伝えられました。「すべての国民たちよ。あなたがたは笛やハーブなどいろいろな楽器の音を聞いたとき、ひれふして、この金の像を拜め。ひれふして拜まないものはだれでも、火の燃える炉の中に投げ込まれる！」

さあ大変です。皆さんはこのような命令が出されたらどうしますか？ もし命令に従わないなら火の燃える炉の中に入れられる：つまり死んでしまうかもしれません。

金の像を拜まなかった人たち

ところがこの命令に従わなかった人たちの中でシャデラク、メシヤク、アベデ・ネゴという3人のユダヤ人がいました。南ユダ国から連れてこられた、まことの神さまを信じ恐れる人たちでした。ネブカドネツアル王さまは彼らに言いました。「おまえたちは私の神々に仕えず、またわたしが建てた金の像を拜みもしないというが、ほんとうか？ 今もしひれふしてわたしがつくった像を拜むなら、それでよい。しかしもし拜まないなら、おまえ

2月

12日 礼拝メッセージ例

私たちはすぐに火の燃える炉に投げ込まれる。どの神がおまえたちを救い出せるだろう!」

シヤデラク、メシヤク、アベデ・ネゴは王さまに答えました。「王さま! このことについてわたしたちはお答えする必要はありません。もしそうなれば、わたしたちの仕える神は、火の燃える炉からわたしたちを救い出すことができます。しかしたとえそうでなくても、わたしたちはあなたの神々に仕えず、あなたが建てた金の像を拜むこともしません。」3人にとって、まことの神さまは目に見えなくても生きて働いておられるただお一人の造り主でした。このお方はどのような中にあっても自分たちを救うことができになるし、また「たとえそうでなくても」神さまを心から愛し、信頼するゆえに、他の神さまを拜むなどありえないことなのでした。

燃える炉に投げ込まれたのに?

それを聞いたネブカドネツアル王はカンカンに怒りました。3人は服を着たまましばらく、火の燃える炉に投げ込まれてしまいました。しかもいつもより7倍も温度を熱くさせたのです。自分の王としてのプライドを守るために血も涙もない命令でした。

しかしどうでしょう! 王さまは思わず目をこすって炉の中を見ました。「わたしには火の中に4人の人たちが見える。あんなにきつくしぼった縄はとかれてるし、彼らは何の害も受けていない。」家来たちも集まって炉の中を見ました。たしかに、まったく火は3人におよんでおらず、髪の毛も服も火のおいさえうつついでません。もうひとりの4人目の人はだれ? やがて来られるイエスさまとも神さまのみつかいとも言われていますよ。

あんなに怒っていた王さまでしたが一転! 3人が信じるまことの神さまをほめたたえ、「このように救い出す神はほかにはない」と言いました。それから王さまは3人をバビロンの国の大切な仕事のために用いました。

結び

わたしたちはどうでしょうか。わたしたちも信仰をためされるような時、どちらの道を選択したらよいのか迷う時がくるかもしれません。自分の立場がピンチになることもあるかもしれません。そんなとき、この3人の生き方を思い出しましょう。最悪と思うような中に、もうひとりのお方がたしかにともについてくださいます!

♪主イエスとともに♪ (イン80、ホ118)

聖書 ダニエル3・8〜25
 テーマ ダニエル② 三人の若者たち

序論

(大頭真一)

偶像礼拝を拒否した三青年は、燃える炉に投げ入れられた。神は彼らを救われたが、彼らが18節で語った(たとえそうでなくても)は、信仰の本質を教えている。

一、聞かれない祈り

ダニエルの友人である三青年には、驚くべき神の守りがあった。けれども「自動販売機式の信仰」にすぐに飛びつかないように注意しなければならない。つまりコインを入れると商品がすぐ出てくるように、祈れば必ず望みは実現する、という信仰である。しかし、遠足の日に雨に降られたことがある子どもたちの心には、すでに疑いが芽生えている。サマセット・モームの小説「人間の絆」の主人公フィリップは、少年時代、真冬にむきだしの床の上に跪ひざまずいて不自由な足の癒いよしを祈り続けた。その祈りが聞かれなかったとき、彼は信仰と決別した。この小説は、かつて吃音きつおんであったモームの半自叙伝とされ

ている。祈りが聞かれないときに、もつと祈りなさい(硬貨が足りないからもつと入れなさい)と教えることがいつも最良のアドバイスとは限らない。

聞かれない祈りは存在する。実際、神を信頼する者がいつも危険から守られるとは限らない。ステパノはどうであったか。パウロもペテロも結局は殉教したと伝えられている。

祈りが聞かれないとき、人はしばしば神の全能を疑う。あるいは神には聞いてくださる気がないのであるか悲観する。いずれの場合にも私たちの視点は、神が私たちの祈りを聞いてくださるかどうかに集中している。しかし三青年の場合はそうではなかった。

二、たとえそうでなくとも

三青年の神への忠実、報いを期待してのものではなかった。(たとえそうでなくとも)の一言に神への熱愛がほとばしる。600年後にパウロがピリピの教会に送った手紙にこうある。「私の願いは、どんな場合にも恥じることなく、今もいつものように大胆に語り、生きるにしても死ぬにしても、私の身によってキリストがあがめられることです。私にとって生きることとはキリスト、死ぬ

ことは益です。」(ピリピ1・20〜21)。この言葉にも同じ信仰の響きがあり、死よりも強い神への愛がある。

三青年も、そしてパウロも、たとい神が彼らの望みをかなえてくだらない場合でも、それに異論はなかった。なぜなら彼らの望みは、神の望み通りに生き、そして死ぬことであつたからだ。この愛が彼らに呼び覚まされたのは、神の愛を知つたことによる。神の能力だけを知るとき、人はまず恐れ、次に神を利用しようとする。けれども、愛なる神のご人格を知るなら、人の心は変えられ、献身の思いを抑えることができなくなる。三青年が知つた神も、パウロが知つた神と同じ神であつた。そしてパウロが知つた神とは、イエス・キリストにおいて、ご自身を罪人のために投げ出された神、展翅板の上に留められた昆虫のように、まったく無能になつてくださった全能の神であつた。預言者ダニエルに十字架を啓示されていたという記録はない。けれども、ご自分の民のために何も惜しむことをされな^いお方として、三青年は神を知つていた。神の子のように見えた火の中の第四の者が、受肉前の主イエスであつたか、それとも御使いであつたか、私たちは知らない。しかし、一緒に火の中を歩い

てくださったお方が神ご自身であつたとしても、ダニエルには少しの不思議もなかつたのである。

結論

子どもたちに神を語るときに大切なのは、私たちがどのように神を知り、どのように神を愛しているかだ。神のお望みになることを私たちも望んでいるだろうか。主イエスは父なる神が全能であることを知っておられたから、「アバ、父よ、あなたは何でもおできになります」(マルコ14・36)とおっしゃつた。そして十字架を前にして、「どうか、この杯をわたしから取り去ってください」と祈られた。けれども主は、その後にもう一言の祈りを加えられた。「しかし、わたしの望むことではなく、あなたがお望みになることが行われますように」と。御子の祈りは聞かれず、父はその御手を動かすことをなさらなかった。そうであつても、いやそれだからこそ、父と御子の心は一つに結ばれ、交わりは破れなかつた。父と御子の願いは、罪人の救いだつたのだから。私たちもまた、(たとえそうでなくても)の祈りをささげるように招かれて

研究資料

(中島啓一)

ネブカドネツアル王は、神によって見事に夢を解き明かしたダニエルをバビロン全州の長官に取り立て、また、ダニエルの勧めに従って、シャデラク、メシヤク、アベデ・ネゴにバビロン州の行政をつかさどらせた(2章)。

その後、ネブカドネツアル王は、自らの権勢を示すために60キュビト(約26m)もの高さの金の巨像を造った。そして、帝国内のすべての人に対し、楽器の音が奏でられるときにはいつでも、「ひれ伏して、ネブカドネツアル王が建てた金の像を拝め」(5)という布告を出したのである。さらに、「ひれ伏して拝まない者はだれでも、即刻、火の燃える炉に投げ込まれる」(6)との厳しい罰則も設けられた。

このような状況下でも、ダニエルの三人の友人たちは、まことの神に対する徹底した信頼と忠誠を示し、金の像を拝もうとしなかった。ついに彼らは火の炉の中に投げ込まれたが、神は彼らを守り、彼らの髪の毛一本さえ焦げることなく、助け出してくださった。「火の中を歩いても、あなたは焼かれず、炎はあなたに燃えつかない」

(イザヤ43・2)とのみ言葉のとおりである。そしてついに、異教の王ネブカドネツアルが、「ほむべきかな、シャデラク、メシヤク、アベデ・ネゴの神」(28)と、まことの神を賛美するに至ったのである。

テキスト

8 あるカルデア人たちが：ユダヤ人たちを中傷して言った 中傷して(ア)アツカル) カルデア人のある者が、ねたみによって、感情的に訴え出たことがわかる。十戒は唯一の神を示し、偶像礼拝を明確に禁じている(出エジプト20章参照)。ユダヤ人であれば当然、王の建てた像にひれ伏すことはできない。

12 シャデラク、メシヤク、アベデ・ネゴです シャデラク(「アク神」マルドゥク神の命令)の意)、メシヤク(「誰がアク神のようであるか」の意)、アベデ・ネゴ(「ネボ神のしもべ」の意)。いずれもバビロニアの神々に因んだバビロニア名。彼らは信仰を曲げることせず、三つの罪状から訴えられた。あなたを無視し 王よりも尊い方に従った。あなたの神々に仕えず バビロンの偶像にひざをかがめなかった。金の像を拝みもいたしません 王の命令に従わなかった。

13 ネブカドネツアルは怒り狂い 非常に強い怒りの表現である。三人の態度は、絶対君主であったネブカドネツアルにとって、許しがたい背反行為であった。

14 本当か 王はことの真偽を正す程度には怒りが収まっているように見える。

15 ……拜むなら、それでよい ネブカドネツアルは三人に甘言を用いて、王は寛容で度量が深いということを示そうとした。

16 このことについて、私たちはお答えする必要はありません どれほどこの世の王が怒っても、命が奪われようとしても、明確で揺るぎない信仰を見ることができよう。

17 私たちが仕える神は、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます 彼らは、まことの神が火の中からも救い出すことのできるお方であるという絶対的信頼を表明した。

18 たとえそうでなくても、王よ、ご承知ください。私たちはあなたの神々には仕えず、あなたが建てた金の像を拜むこともしません 「神には救う力がないので救い出すことができなくても」という意味ではなく、「もし、神が救い出すことをよしとされないで、救い出されなく

ても」という意味である。結果いかんにかかわらず、神を絶対的に信頼し、どこまで神に忠実であろうとした彼らは、たとい焼き殺されたとしてもこの世のものを拜むことを選ぼうとしなかった。

19 炉を普通より七倍熱くするように命じた ネブカドネツアルは怒りに理性を奪われた。皮肉なことに、炉を熱くしたことは神の偉大さを表す結果になった。

22 ……を持ち上げた者たちを焼き殺した 三人を連行した者でさえ火炎に巻き込まれた。この世的に見るなら三人の命運は尽きたといえる。

25 第四の者の姿は神々の子のようにだ ネブカドネツアルは火中の様子を見て驚いた。彼らが火によって何ら損なわれなかったこと、しかも猛火の中を歩く四番目の者の姿があったことにある。それは異教の王であっても、神々の子と言わしめるほどの偉大さ、崇高さをまとった姿であった。28節ではネブカドネツアルが「御使い」と呼んでいるが、受肉以前のイエスとする考え方もある。

参考図書 J. E. Goldingay (Word), 山口昇(新聖書注解旧約4) 他

聖書

ダニエル6・1〜24

タイトル

ダニエル③ 獅子の口からの守り

暗唱聖句

私の神が御使いを送り、獅子の口をふさいでくださったので、獅子は私に何の危害も加えませんでした。ダニエル6・22

目標

圧迫や迫害の中でも、神への礼拝を貫く。

導入

(和田牧子)

ダニエルさんやその仲間たちが、ただおひとりのほんとうの神さまを信じ、勇気をもってその信仰を守り続けたお話を聞いて来ました。今朝はその続きです。あんなに大きな力をもっていたバビロン王国もほろび、新しい国の新しい王さまの政治がはじまっています。それでもダニエルは変わることなく活躍していましたよ。

新しい法律！

ダニエルは神さまの霊がゆたかに与えられていたの
で、ほかのだれよりもかしこく才能がありました。それで新しい王さまのもとでも大切な役目をおおせつかり、
全国を治める人として任命されたのです。おもしろくないのはほかの大臣や役人たちです。「うーん、なんとか

ダニエルをおとしいれる方法はないかな。」みんなでダニエルのあら探しをしました。でも何一つ欠点が見つかりません。ダニエルは何ごとにも忠実で、怠けているところや責めることが全く見つからなかったのです。

それで大臣たちは王さまのところに押しかけてきこう言いました。「王さま！ 今から30日間あなた以外にお祈りをする者はだれでもライオンのいる穴に投げ込まれるという取りきめをつくりました。どうぞこの文書に王さまの名まえを書いてください。そうすればこの国の法律となって、だれもこの命令を変えることはできません！」「そ、そうかわかった…」王さまはその文書に名まえを書きました。

ダニエルのとった行動はっ

さあ、これで王さま以外に礼拝をしたりお祈りをした
りしたら大変なことになります。このような法律ができ
たと知ったダニエルはどうしたでしょうか。その日ダニ
エルは家に帰って、屋上に上がりました。屋上の部屋に
は窓があり、エルサレムの方向に窓があいていました。
ダニエルはいつもその窓の下で三度ひざまずき、ただお
ひとりのほんとうの神さまにお祈りをしていました。こ

2月

19日 礼拝メッセージ例

の日も変わらず、心からの祈りを神さまにささげたのです。窓は開いていたので外からはまる見えです。待っていましたとばかり、ダニエルをおとしいれようとしていた人たちが王さまのところに来てうったえましました。「王さま！ ダニエルは法律を守らず、自分が信じる神に祈っていました。しかも一日に三度もです！」

王さまとしてはダニエルがとても優秀で誠実な人だったので、何とか彼を助けたいと手をつくしました。しかし王さま自らが署名をした法律を変えることはできません。とうとうダニエルはライオンのいる穴に投げ込まれることになってしまいました。王さまは言いました。「ダニエルよ。おまえがいつも仕えている神が、おまえをお救いになるように。」

ダニエルのいのちはどうなった？

ダニエルはライオンがいる穴に入れられ、穴は石で封じられました。王さまは一晚じゅう何も食わず、眠ることもせず、次の朝、夜があけるとすぐにライオンの穴へとかけつけました。ダニエルのいのちはどうなったのでしょうか？ 王さまは大きな声で聞きました。「生ける神のしもべダニエルよ。おまえがいつも仕えている神

は、おまえをライオンから救うことができたか？」するとどうでしょう。ダニエルが元気な声で答えたのです。「王さま！ 神さまのみ使いがライオンの口をふさいでくれたので、わたしはこのとおり無事です！」ダニエルのからだにはひとつの傷もありませんでした。王さまは大よろこびでダニエルを穴からひきあげ、ダニエルの信じるまことの神さまをほめたたえました。

結び

このお話は、いつでもどこでもわたしたちのいのちは守られますよ…という話ではありません。残念ながらもことの神さまを信じていたために牢屋に入れられたり殺されてしまった人も聖書には出てきます。ダニエルはただ習慣としてではなく、毎日3度の神さまへのお祈りの時がなくてはならないよろこびのときだったので。神さまから離れることは、自分の命を失うことよりもあり得ないことだったのでね。なによりもまことの神さまが決して「あなたを離れない」、「あなたを忘れない」と言われています。どこまでも信頼していきましょ。

♪神さまといつもいっしょ♪ (イン73)

聖書 ダニエル 6・1～24
 テーマ ダニエル③ 獅子の口からの

序論

(高橋頼男)

国の法律に反して、神への祈りをやめなかったダニエルは、ついに獅子の穴に投げ込まれました。しかし神は、獅子の口からダニエルを守られました。神の守りとは、どのような人に与えられるのでしょうか。

一、神の御前に祈る人(10)

ダニエルは、彼を妬む者たちの謀略の文書に王が署名したことを知っていました。にもかかわらず、家に帰り、エルサレムに向かって開かれた屋上の窓もそのままに、(以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って感謝をささげていた)のです。

すべてのことを知りつつ、あえていつもと同じように、信仰の良心に従って祈りをささげました。揺るぎない確立された神の御前の生活を、日々生きる聖徒の姿に、私たちは驚きと感動を禁じ得ません。何と力強い堅固な信仰でしょうか。ことあるごとに恐れ、迷い、信仰が揺れてしまう私たちにとって眩いばかりです。

ダニエルの祝福された人生の秘訣は、神礼拝と祈りを第一とする生きかたを貫き通したことです。それは、どんな時、どんな状況の中でも揺るがずぶれず、変わらなかったのです。

今日、私たちもダニエルのように、祈りと礼拝生活において、神第一を貫く決意をする必要はないでしょうか。世の激しい逆流に立ち向かい、偶像礼拝が支配する霊的暗闇の世にあつて、揺るがぬ信仰を確保し、キリストの証人としての生活を自由、大胆に生きるためです。

二、神の前に正しくよい人(22)

ダニエルは、王の前に、自分が神の御介入による奇跡によって獅子の穴から助け出された理由を説明して言いました。(それは、神の前に私が潔白であることが認められたからです。王よ、あなたに対しても、私は何も悪いことはしていません)と。

ダニエルは、神の前に罪を犯さず正しい清い生き方をしました。さらに、人の前にも誠実であり、忠実な働きをなし、彼の生活には公私において何の裏表もありませんでした。ですから、敵でさえも、彼の内には何らの不正も怠慢も欠点も見つけ出すことが出来なかったのです。

しかし、正しく清い生き方がこの世の人々に必ずしも受け入れられるわけではありません。むしろ、ダニエルのように煙たがられ、あらぬ批判を受け、憎まれ、迫害を受けるのがこの世の常です。

人となられた主イエスの歩みはまさしくそのとおりでした。私たちもクリスチャンとして神の前に人の前に清く真実に生きることを恐れてはなりません。そして、この世において誤解され、批判され、憎まれることをも覚悟しなければなりません。いえ、そこにこそ私たちの使命があるのです。義のために迫害されるものこそが、地の塩、世の光となるのですから（マタイ5・10～16）。

三、神に信頼する人(23)

ダニエルが獅子の穴から出された時、その身に何の害も受けていませんでした。（彼が神に信頼していたからである）とあります。これはダニエルがかなり高齢になつてからの出来事です。若き日にバビロンに捕囚として連れて来られた時から約七十年、終始一貫、主に信頼し続けてきたダニエルの信仰の姿がそこにあります。

ダニエルは、異邦の国、偶像崇拜の民の中で、奴隷の民として生きて来ました。人がどう思い何と言おうが、

世間がどういう態度をとろうが、自分が信頼する神の御前に忠実に生きました。それが、異邦社会における彼の処し方でした。そのため、どんな迫害や苦しみを受けるかは、ダニエルにとつて全く問題ではありません。ダニエルの神への深い信頼、ひたすら神に仕える忠実な信仰の生き方は、全く揺るぐことがなかったのです。

ダレイオス王は（生ける神のしもべダニエルよ。おまえがいつも仕えている神は、おまえを獅子から救うことができたか）と言っています。王は、ダニエルの信仰を通して、そば近く仕えるダニエルが礼拝している神、彼が信頼する神こそが、真の神、全能の神であることに気づいていたのです。この出来事は、神に信頼する者に与えられる試練が、かえって周囲にどんなに大きな恵みの機会となるかを教えています。

結論

偶像の国バビロンの政治の中核に生きたダニエルの信仰と生活は、異教社会の日本に生きる私たちにとって、確かな示唆と励ましを与えます。揺るぐことのない一貫した祈りと神礼拝、神と人の前に清い誠実な生き方の秘訣は、彼の神に対する絶大な信頼にあったのです。

研究資料

(中島啓一)

この個所のメッセージは、神により頼む者は、必ず現実の死のわなから守られるということではない。現実には、教会の歴史を通して多くの殉教者がいる。大切なことは、自分の望むとおりにことが進むことではなく、神を中心とする見地に立って生きることである。死から解放されるか、そうでないのか、それは神の御手の中にあることであって、いづれを通してでも、神の栄光があらわされ、神の計画が前進することこそが重要なのである。

この書の最終章では「その時…あの書に記されている者はみな救われる」(12・1)と、究極の救いが約束されている。獅子の穴から救いは、来たるべき究極の「死の穴」からの救いを先取りし、約束するものと言えよう。

テキスト

1〜3 王は、彼を任命して全国を治めさせようと思つた。王がダニエルを、太守たちはもとより、他の二人の大臣よりも勝る立場に拔擢ぼつぱくしたことが、ねたみを招いた。

4〜5 ダニエルを訴えるための、いかなる口実も見つけられない。彼の神の律法のことで見つけるしかない

敵対者たちがダニエルを陥れるためには、その信仰心を利用するしかなかった。

6〜9 今から三十日間、王よ、いかなる神にでも人でも、あなた以外に祈願をする者は…彼らの王に対する敬意は表面だけで、実際は己の欲望のためだけに王の権威を悪用するものであったが、これはダニエルが、王に背く／背教する のいづれを選んでも、彼を窮地に追いやれる巧妙な法案であった。

10 署名された ダニエルを排除しての建議は不正な方法であったが、それでも王が署名したならば有効であることを、ダニエルは知っていた。屋上の部屋は…窓が開いていた 祈りがもてはやされるときには隠れて祈るべきであるが(マタイ6・6)、禁令のもとで隠れて祈るなら、神よりも世の権力を恐れることになる。以前からしていたように よってダニエルは以前からの祈りの習慣を変えなかった。日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈って 朝と夕の一日二回立って祈るのが一般的であったが(I歴代23・30)、彼は一日三回ひざまずいて祈った。それは、特別な厳肅さ、祈りの必要性、そして謙遜けんそんを示すのだろう(I列王8・54、エズラ9・5)。感謝をささ

げていた。「夕べに朝に また真昼に」(詩篇55・17)と、日に三度祈った詩人は「主は 私のたましいを敵の挑戦から／平和のうちに贖い出してくださる」(詩篇55・18)と信頼を告白した。ダニエルの、祈りに続く感謝は、それと同種の信頼を表すのだろう。

12 獅子の穴 狩猟のときに獲物として放つために、ライオンを飼育していたのであろう。ペルシャ時代については記録がないが、少し前のアッシリア時代には獣の檻こいに犯罪者を入れる公開処刑があったという記録がある。

14～15 王は非常に憂い 王は大臣たちの策謀を知って憤り、彼らに操られてしまった自らを恥じ、意図せざることはいえ、信頼するダニエルを窮地に追いやってしまったことを嘆いた。決して変更されることはない。しかし、王といえども法を曲げることはできない。それは、社会秩序の根底からの崩壊につながるからである。

16 おまえがいつも仕えている神が、おまえをお救いになるように ダニエルを救いたい一心で、王が願ったのは、ダニエルが仕える神に対してであった。皮肉なことに、これは、王以外への願い事を禁ずる法律に、王自らが違反していることになる。このように、私的、内面的

なことを禁ずる点で、そもそも無理のある法律であった。17 それを封印し これは、受刑者に他者の助けを届かせないための措置だが、結果的に、救いが神によるものであることを明白にする役目も果たすことになる。

18 一晚中断食をした 王は、自分の愚かさを悔い、わらにもすがる思いで祈ったのだろう。

19 夜明けに日が輝き出すとすぐ 拷問に朝まで耐えた囚人を赦免する慣習がバビロンにはあったようで、それがペルシャのダレイオスの時代にも続いていた可能性は高い。彼が夜明けを待ちわびたのはそのためであろう。

20 生ける神のしもべ：神は、おまえを獅子から救うことができたか 「生ける神」という表現にこの問いに対する答えがある。生ける神ならば彼を救うことができるし、救えないならば生ける神ではないのである。

22 私の神が御使いを送り：… 三人の友人たちの場合(3・25)と同様に、神は試練のただ中に助け手を送って、ダニエルを守られた。

参考図書 注解書 J. E. Goldingay (Word), W. S. Towner (Interpretation), 山口昇 (新聖書注解 旧約4) その他 The IVP Bible Background Commentary: OT

聖書 エステル4・1〜17

タイトル エステル

暗唱聖句 私は、死ななければならぬのでしたら死にます。 エステル4・16

目標 神からの使命を命がけて果たす者となる。

ユダヤ人大ピンチ

(櫻井めぐみ)

今日のお話の舞台となるのは、ペルシアという国です。日本にも、外国の人たちがたくさん生活していますが、この時代のペルシアもそうで、特にユダヤ人の人たちが大勢住んでいました。しかしこの時、ユダヤ人たちに絶体絶命のピンチが訪れようとしていました。ペルシアに住むユダヤ人は皆、ハマンという人の悪巧みによって殺されそうになっていたのです。

モルデカイとエステル

モルデカイはユダヤ人で、まことの神様を信じる人でした。エステルの両親は早くに死んでしまったので、モルデカイはエステルを娘として育てていました。しかし、このエステルがなんと、ペルシアの王様の妃になっ

てしまったのです。エステルは王様にとっても愛されて毎日暮らしていましたが、そんな時でした。ユダヤ人虐殺の計画が、ハマンによって進められていたのは。しかし、まことの神を信じるモルデカイとエステルは、ただ殺されるのを待っていたわけではありません。ハマンの計画をなんとか阻止しようと、行動に出ました。キーパーソンとなるのは、王妃となったエステルです。エステルなら王に働きかけて、ハマンの悪巧みを阻止することができるとは思いません。ただ、そこにはリスクもありました。王様の所に、呼ばれもしないのに自分から出向いて行くことは禁じられていました。その決まりを破ったら死刑です。ですから、王様に相談すること自体が非常に難しいことでした。

もしかすると、この時のため

しかしエステルは、自分だけがただ幸せになるために王妃になったわけではありませんでした。「あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、このような時のためかもしれない。」と、モルデカイは言いましたが、エステルがペルシアに来て王妃となったのは、彼女を通してユダヤ人を救い出そうとする、神のご計画があったのだとい

うことを示しています。そのモルデカイの言葉を受けて、エステルも立ち上がってゆくのです。

三日間の祈り

しかしエステルは、すぐに王様の所に行こうとしたのではありませんでした。まず行ったのは、三日三晩の断食です。これは食事をせずに、祈りに集中するということです。三日間も、と思うかもしれません、それだけ危機的な状況であり、大事なことでした。ふつうは、命が脅かされそうになっているのですから、すぐにも行動しなければならぬ、と思うものです。しかし、エステルも神を信じる人でした。一刻を争う状況だからこそ、何よりもまず、徹底して祈らなければならぬことを知っていました。それも自分だけが祈るのではなく、みんなと一緒に、このピンチのために祈ったのです。

「死ななければならぬのでしたら、死にます」

エステルはそうのように言いましたが、本当に、死を覚悟して臨まなければならない状況でした。私たちも神様を信じる者として、エステルのこの態度は重要だと思えます。それは本当に死ぬ、という覚悟だけでなく、どんなことが起こったとしても、それが神のみこころなら自

分をゆだね、お従いします、という決意の表明なのです。私たちは現代の日本で生きていて、神を信じることで命が脅かされることはまずありません。でも、日常生活の中で与えられている務めに対して、自分あまりにもふさわしくない。できないと感じることはあるでしょう。自分はふさわしくない。できない。無理だ。そう思いながらもなんとかとどまっているけれど、本当は逃げ出したいし、投げ出したい。「死ななければならぬのでしたら、死にます」と言ったエステルの心境にはほど遠い。しかし、このように言ったエステルにも、恐れや、ためらいがなかったとは言いません。それでもエステルは決断し、三日間の祈りの後、行動に出るのです。なぜなら彼女は主を信頼していたからです。たとえどんなことになったとしても、主のみこころがなることが最善であり、神がなされることに間違いはありません。実際この後、ハマンの悪巧みが暴かれて、ユダヤ人は助け出されることになるのです。私たちも、神様から与えられている使命がどんなに難しく思えても、神様を信頼し、自分をゆだね、神様のみこころに従って、歩んで行きましょう。

♪主がわたしの手を♪（新聖歌474、ホ89、PW97）

聖書 エステル 4・1～17 テーマ エステル

序論

(高橋頼男)

エステル記は、ペルシャ王クセルクセス（アハシユエロス）の時代に首都スサの王宮においてユダヤ人である王妃エステルが活躍した物語です。ユダヤの祭りである「プリム祭」の起源を説明するもので、エステルが王妃に選ばれる経緯、ハマンの陰謀とエステルの命がけの活躍、ユダヤ人の救いと敵ハマンの滅亡が記されています。

一、王妃に選ばれたエステルの使命

王宮では政治の外に置かれていたエステルに対してモルデカイは、ハマンによって計画された民族絶滅の危機が迫っていることを告げました。そして今こそエステルが王妃の立場を用いて命を懸けた働きをなすべきだと論じます。（あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、このような時のためかもしれない）。

神は、モルデカイもエステルも願ったわけではないのに全てのことを働かせ、国中から集められた美女たちの中から特別にエステルを選び、王妃となる栄冠を得させ

られました。そして、エステルは王宮に住み、思いもしなかった特権と名誉を得たのです。それは何という光栄と祝福でしょうか。しかしそこには、神のご計画があることを忘れてはなりません。自分の喜びや名誉のためにそのような祝福を受けたわけではありません。神は無目的に人を選ばれることはありません。神の選びや祝福には、必ず神の大きいなるご計画と期待が秘められています。その大きいなる務めのためにこそ、彼女は思いがけない榮譽を受け王妃にまで引き上げられたのです。神は、この時のために、すなわち、民族撲滅の危機からご自分の民を救うために、エステルを備えておられたのです。私たちに与えられている世や社会における立場や榮譽は、私たちの自己目的の人生や満足のためではなく、神が期待しておられる使命を果たし、奉仕する機会であることを忘れてはなりません。

二、エステルの決断

神のご計画と導きに対して、人の側での信仰と従順の応答がなされなければなりません。そして、その従順は時には命を懸けるほどのものです。

エステルは何としても、至急、王の前に出て嘆願しな

ければならないと思われました。しかし、王の好意を受けていたエステルではありますが、もう一カ月も王の招きはなく、自分から王の前に出ることは許されていなかったのです。王の身が守られるため、だれも王の招きなく近づくことは出来ず、勝手に近づく者は身分立場を問わず死刑になるという法律がありました。ただし、王が笏しやくをのべる者には命が守られ近づくことが許されるのです。そこでエステルは決断をしました。三日の断食を依頼し、神が王の心を動かしてくださいようと祈りを求めました。そして、自らは（私は、死ななければならぬのでしたら死にます）と、自分の命を神のみ心に全く委ね、その結果がどうであろうと従う決心をしたのです。

三、ユダヤ人の救い

この結果、ユダヤ人撲滅というハマンの計略は失敗し、ハマン自身が自分の立てた計略によって失脚し命を失うことになりました。王は、新しい勅令を出してユダヤ人に対する恩恵を施し、その命と財産を守るようにしたのです。その結果、敵は滅ぼされ、ユダヤ人は驚くべき勝利を取ることができたのです。

神は、神を知らない人々や異教社会にあつて、人間の

政治、社会、個人の生活の中にまでも働かれ、摂理をもって神のご計画を進められています。そして、神のご計画に従って忠実に、信仰によって応答し、神のためには身をささげて真剣に応答する人を用いてみ心をこの世に成し遂げられるのです。「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となる：」（ローマ8・28）。

この書には神の名が一度も出てきません。しかし確かに神は生きて働かれ、神の民を敵の恐ろしい計略と力から守り、見事に敵を打ち破ってくださいました。神はこの地（異教国、偶像崇拜、神を知らない人々の社会、支配）にある神の民（クリスチャン）を、大きな憐れみと見えない摂理の手をもって、悪しき者の手と試みから守り救ってくださいなのです。この世の権力と支配の現実の中で、神が見えず神がわからなくなるようなことがあります。しかし、神はご計画のうちにそのみ心を成し遂げ、見えない摂理の御手をもって働いておられるのです。

結論

神を信じて熱心に応答し、委ねられた神からの使命に身をささげいく者となりましょう。

研究資料

(小平徳行)

エステル記はエズラ記、ネヘミヤ記と同様、バビロン捕囚帰還後の歴史を背景としている。バビロンを滅ぼしたペルシア王キユロスは、BC 539年に勅令を出し、ユダヤ人を故国に帰るように促した。しかし帰還した民はわずかで、大部分はペルシアに残留した。本書の記事はゼルバベルが第一部隊を率いて帰国し、神殿再建を果した

第一期(エズラ1〜6章)とBC 458年のエズラ帰還の第二期(エズラ7〜10章)の中間に起こった出来事を記している。この時の王はクセルクセス、舞台はペルシアの首都スサである。このときペルシアにいるユダヤ人は、ハマンによって計画された民族根絶の危機にさらされていた。しかし、この異邦の地に残留している神の民に対して、神は大きなあわれみを注ぎ、見えない摂理の御手をもって神の民を悪しき者の手から救われたのである。本書の特徴は、神の名が一度も出て来ないことである。人間の政治的、社会的、個人的な活動の中に神が摂理的に働かれて、神のご計画が必ず実現していく事を教えられる。しかし同時に、エステルやモルデカイが自分たち

の置かれた場所において忠実に神の召しに信仰によって応答し、己を捨て、神のみこころに身をささげて、神の民と神の栄光のために生きたところに神のご計画が実現したことを覚えるべきである。

テキスト

1〜3 衣を引き裂き、粗布をまとい、灰をかぶり これらは悲しみを表わす行為であり、イスラエルだけでなく広く古代オリエントで行われていた(イザヤ15・3、ヨナ3・5〜6等)。各州のユダヤ人もモルデカイと同様の反応を示している。彼らはただ悲しんだだけではない。本書は宗教的行為を表面に出していないが、これらの行動で神への悔い改めと嘆願の祈りを暗示している。

4 エステルは政治の動きの外に置かれていたためモルデカイの悲しみの理由を知らなかった。受け取らなかったモルデカイが着物を受け取らなかつたのは、彼の悲しみが容易になだめられるのではなく、なお祈り続ける必要を感じていたからであろう。

11 召されないのに奥の中庭に入って王のところに行く者は、男でも女でも死刑に処せられる この法律は王の生命を守るため、またささいな問題で王を悩ますことが

ないために定められ、勝手に近づく者は身分を問わず死刑となった。したがって王がエステルを招くのでなければ、王のところに行くことはできなかった。ここまでは一ヶ月間エステルは王から招かれておらず、王に嘆願するのは困難な状況であった。笏 王の権威を表わす杖。13〜14 モルデカイはこの危機的状況から救われるために、エステルを懸命に説得した。あなたは、…王宮にいるので助かるだろう、と考えてはいけない エステルもユダヤ人虐殺の命令の対象外ではない。別のところからモルデカイはエステルが事を起こさなかったとしても神はエステル以外の方法を用いてユダヤ人を助けてくださると信じていた。それは神の民に対する約束を信じる信仰から来ている。あなたも、あなたの父の家も滅びるだろう 神の召しへの不従順は自らとその家の滅びを刈り取ることになるという警告。あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、このような時のためかもしれない

モルデカイはエステルの生命をかけた働きこそ神の御旨であると確信していた。ゆえに与えられた立場を最大限に用いるようエステルを励ました。これは神の摂理に対する信仰である。モルデカイもエステルも進んで王妃を

目指したわけではなかったが、全ての状況が働いて彼女が王妃となった。これは今回の危機のために神が人の思いを超えてあらかじめ準備されていたのである。

15〜16 三日三晩 通常、断食は一日のみであったので、この要請は、この責務が非常に重大であることを認識していたことを表わしている。これはとりなしの祈りの依頼である。王の心を動かすのは自分ではなく神であると信じていた。私は、死ななければならないのでしたら死にます これはあきらめではなく自分の生命を神のみこころに完全にゆだねて、自らを明け渡して従う決意を表わしている。

この結果、ハマンを失脚させることに成功し(5〜7章)、王は新しい勅令を出して、ユダヤ人自らの手でのちと財産を守るようにし、ユダヤ人は勝利を収めることができたのである(8〜9章)。

参考図書 鈴木昌「エステル記」『実用聖書註解』、工藤弘雄『新聖書講解・エステル記』(以上のちのことば社)、C・E・デマレイ「エステル記」『ウェスレアン聖書注解・旧約篇2』(イムマヌエル綜合伝道団) 他

聖書 ヨハネ12・20〜28

タイトル

暗唱聖句

目標

一粒の麦として
一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、
一粒のままです。しかし、死ぬなら、豊
かな実を結びます。ヨハネ12・24
一粒の麦として死んでくださったキリス
トによる救いを受け取る。

導入

(今田雅子)

皆さん！ 朝顔って知ってるよね。育てたことってあるかな？ 種を一つ植えると芽が出て、ツルがどんどん伸びていつて花が咲きます。花が枯れた後は種がいつぱいとれるよね。でも、ちょっと考えてみて、最初に植えた種ってどうなるのかな？ 種のかたちがそのまま残ってることってないよね。もとのかたちがなくならないと新しい命が生きていることはないのですね。

時が来た

イエス様がエルサレムに入城され、もうすぐ十字架に架かるというある日のこと。ちょうど、エルサレムの町は過越の祭りのために、あちこちから沢山の人が集

まって来ていました。その中にはギリシヤ人もいて、何人かがイエス様にお会いしたいと頼んできたのです。するとイエス様は「人の子（イエス様）が栄光を受ける時が来ました。」と言われたのです。

何のことなんでしょうか？ 当時の人たちは「イエス様が王様になって、私たちをおさめて幸せにしてくれる」と思っていたのです。だから「とうとうその時が来た」と喜んだと思います。

けれどもイエス様の言われる「時が来た」というのは皆が思っていたのとはちよつと違うみたいでした。

一粒の麦のたとえ

続いてイエス様は「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。」と言われました。最初に話した朝顔と同じように、一粒の麦の種を土の中に植え、水や肥料をやるとどんどん伸びていつて、実がいつぱいできます。たった一粒の麦の種から沢山の实ができるのです。でも、土に植えた種は、さつきの朝顔と同じようにもとの種のかたちはなくなっています。もとの麦の種が死なないと新しい沢山の命を生み出すことはできないのですね。

イエス様ご自身が一粒の麦に

さつきイエス様が「人の子が栄光を受ける時が来ました。」と言われたことの意味がここからわかるのです。イエス様は「あなたは王様、素晴らしい！」と沢山の人々から褒め称えられるためにこの世にいられたのではありません。世界中の人たちの罪の身代わりになって死ぬためにこの世にいられたのです。そして「いよいよその時が来たのだ！」と言われたのです。イエス様は一度も罪を犯したことはなかったのに、罪人として、十字架刑という重い刑罰を受けて死なれました。それは、世界中の人たちが罪から救われて生きることが出来るためだったのです。私たちが永遠の死ではなく、永遠のいのちを持つことができるために、イエス様は一粒の麦となって死んでくださったのです。

一粒の麦となった人のお話

一九五四年九月北海道と青森県の海を歩き来する青函連絡船洞爺丸とまらが台風で沈没するという事故がありました。亡くなられた方の中に二人の宣教師がいました。彼らは、救命道具のない女性たちに自分達の救命具を外して渡し「私たちはイエス様を信じて救われています。で

も、あなたがたは救われていません。助かったら、きっと教会に行つて、イエス様を信じて救われてください」と言ったそうです。助かった女性たちは、教会に行つてイエス様を信じて救われたそうです。

まとめ

皆さんは、一粒の麦となって死んでくださったイエス様を信じて救われ、永遠のいのちをいただいていますか？「まだかなあ」と思う人は、ぜひイエス様の救いを受け入れて、永遠のいのちをいただきましょう。

そして、自分中心、自分が一番先ではなく、イエス様と他の人々を愛し、大切にして歩んでいきましょう。自分が人より先に、すぐれた人になるのではなく、他の人々がイエス様にあつて幸せになるにはどうしたらいいのかを考へながら歩んでいきましょう。神様は、私たちに沢山の恵をならせてくださいますよ。

♪気づかなかつた♪(イン34)

聖書 ヨハネ12・20～28 テーマ 一粒の麦として

序論

(石田高保)

戦後の日本は国民が一丸となって経済を成長させるという使命に生きてきましたが、これも今や過去のものとなり、他の使命を求めてさまよっているようです。いたい時代に翻弄されない使命はないのでしょうか。使命は英語でミッションと言ひ、任務とか、伝道という意味もありますが、あなたのミッションは何でしょうか。

一、イエス様の使命

しゅろは旧約聖書では「なつめ椰子」と訳される常緑樹で、繁栄の象徴とされていました(詩篇92・12)。ヨハネは黙示録7・9で、なつめ椰子を持った殉教者たちが神を賛美している姿を描いています。今日の個所でも群衆、おそらくガリラヤから過越祭に来ていた巡礼者たちは、詩篇118・25～26を引用し「ホサナ。祝福あれ、主の御名によって来られる方に」と叫んでいます。ちなみにホサナは「お救いください」という意味のヘブル語です。主のガリラヤでの活躍を知っていた人々や、ラザロの復

活を見聞していた人々は(17～18)、主が世俗的な意味の王となり、奇跡的な力をふるってローマの支配から民族を解放してくれることを期待していました。しかし、その後の言動からわかるように、主はその期待に応えようとはせず、主はそれと正反対のことを考えておられました。

戦争に勝利した王は普通、馬に乗って凱旋するのですが、主は「ろばの子を見つけて、それに乗られた」。ろばは、馬よりもはるかに小さく、力も見栄えありません。ろばの子ならなおさらです。ゼカリヤは救い主の使命を知った上で「見よ、あなたの王があなたのところに来る。ろばに乗って」と預言しました(ゼカリヤ9・9)。それに続けて、「わたしは：軍馬をエルサレムから絶えさせる。：彼は諸国の民に平和を告げ」(同9・10)と預言しています。エルサレム入城の時、イエス様を政治的な王と考えていたのは群衆だけではなく、弟子たちも同じでした。しかし「イエスが栄光を受けられた後」(16)、つまり、十字架、復活、昇天の後に、弟子たちはゼカリヤがイエス様について預言していたことに気がついたのです。主の使命が軍事的な解放ではなく、罪からの解放

であったことは、その後の主の行動を見ればよく理解できます。

二、主の弟子の使命

主に敵対していたパリサイ人が「世はこぞつてあの人（の後について行ってしまった）」(19)と落胆するほど、イエス様の人気は高まってゆきます。さらに巡礼に来ていたギリシヤ人たち、割礼は受けていないがイスラエルの神を信じていた人々も「イエスにお目にかかりたい」と訪ねてきます。しかし今や主の覚悟されていた「時」が来ました(2・4、7・6参照)。十字架においてユダヤ人だけでなく、ギリシヤ人をはじめ全人類の身代わりになるという神の時が来たのです。それは主が一粒の麦になることによって、初めて実現することにほかならなりません。神であるキリスト(一粒の麦)は、人となってこの地上に来た(地に落ちた)。さらに十字架で死なれるとき、豊かに実を結ぶ(救いの道を開く)。これは、二千年前、文字どおりに実現しました。しかしこの真理は、単にイエス様の場合だけではありません。(自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世で自分のいのちを憎む者は、それを保って永遠のいのちに至ります)、この場

合、憎むとは「第一としない」という意味です。自分ばかりを大切にする生き方をやめるということ。一粒の麦が死ぬとは、麦としての形を失うことを意味します。しかし形は失われても、何十倍もの収穫となって実を結び、命は次の世代に受け継がれるのです。

なつめ椰子をもって主を迎え、賛美することは素晴らしいことです。ろばの子のように主のご用に用いられることも幸いです。しかしもっと大切なのは、一粒の麦になって死ぬことでしょう。私たちも周りの人のために自分を使う生き方にチャレンジするとき、豊かに実を結ぶことができます。身の周りの小さな十字架を選び取ることです。たとえば損得を越えて人を助ける、好き嫌いを越えて親切にすること、遺恨を越えて人を赦すこと、煩わしさを越えて人の話に耳を傾けることなどです。そのように一粒の麦となって死ぬとき、神が力強く働いてくださいます。

結論

たとい損になることでも、そのような生き方を選ぶことがキリストの弟子の使命です。さて、主から示されているあなたの使命、ミッションは何でしょうか。

研究資料

(宮澤清志)

テキスト

20 **ギリシア人** この言葉をもって、必ずしも人種としてのギリシア人を意味するわけではない。この言葉にはいくつかの意味があるが、ユダヤ教に改宗した異教徒であったか、あるいはユダヤ教に理解を持つ異邦人か、いずれかであったものと推測される。いずれにしても、ヨハネがこの表現をここに示したのは、イエスの御わざが、同胞イスラエルから異邦人に移ることの序曲であり、その意味で新しい時の始まりを告げる注目すべき出来事なのである。

21 **この人たちは、ガリラヤのベツサイダ出身のピリポのところに来て** このギリシア人たちがなぜ直接イエスのもとにではなくピリポの所に来たのか、はつきりした理由はわからないが、ピリポとアンデレの名が記されていることを考えると、この二人がギリシア的な名前の持ち主であって、またギリシア人と何らかのつながりがあったのではないかと推測できる。あるいは、次の節も含めて理解すると、イエスの福音がその弟子たちを経由

してはじめて彼らに届いたのであり、この事はイエスの深い必然であったと理解する学者もいる。含蓄のある黙想である。お願ひします〔ギ〕キュリエ) 「先生」(新改訳第二版)と訳されている通り、通常「主」と訳される言葉である。イエスにお目にかかりたいのです ある英訳聖書では、「イエスにお目にかかるとよいのですが」と、日本語訳より少し弱く訳されている。しかし、なぜ彼らがイエスにお目にかかりたいのか、その動機は定かではない。単なる好奇心からであったかもしれない(ルカ19章のザアカイ他)。

23 **人の子が栄光を受ける時が来ました** この文の中心は「時が来ました」である(ギリシャ語の語順ではこの言葉が最初にある)。ヨハネはこれまで繰り返し「わたしの時はまだきていません」と語ってきた(2・4、7・6、8・20)。しかしやがてその「時」が来ることを、慎重に語ってきた。そして時いたって「人の子が栄光を受ける時が来ました」と語る。それはイエスの十字架の時であり、完成の時である。この宣言を聞いて、群衆たちは、いよいよローマの支配を打ち破り、イスラエルの王国を樹立する栄光の時の到来を夢見たに違いない。

24 まことに、まことに、あなたがたに言います イエスが非常に重要な真理を語る時にしばしば用いる表現。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ… よく知られた自然の事例をもって、真理を説明する。キリストの十字架の死は、この世に命をもたらすものである。イエスにおける栄光の時とは、自らが栄光を受ける時ではなく、人々の栄光のために自らを十字架にささげる贖いの死の時であった。

25 この逆説の言葉もしばしば福音書において語られてきた(マタイ10・39、16・25、マルコ8・35、ルカ9・24、17・33)。自分のいのち(この「命」(ギブシユケー)は肉的生命であり、この命によってのみ生きようとする者は、永遠のいのちを失うのである。こちらの「命」(ギゾーエー)は、神の国の生命、霊的生命である。

27 この節は、ヨハネのゲッセマネとも呼ばれている箇所である。心(ギブシユケー) 25節の「いのち」と同じ言葉である。あるがままとしての人間の心は、死を前にして悩みを禁じることができず、動揺せざるを得ない。ゲッセマネにおける「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです」(マタイ26・38)という言葉と同じである。それ

は肉体的な死の恐怖でなく、罪と死の重荷を一身に背負った暗黒の世界がイエスの心を支配しているのである。父よ、この時からわたしをお救いください。人間イエスの叫びであり、ゲッセマネにおける「この杯をわたしから取り去ってください。」(マルコ14・36)の意味を持つ言葉である。いや、このためにこそ、わたしはこの時に至ったのだ イエスはただ十字架の一点を見つめていた。

28 天から声が聞こえた 福音書は、三度、天からの声を記述している。イエスのバプテスマ(マルコ1・11他)と変貌山(マルコ9・7他)とこの箇所である。いずれもイエスの生涯においては転機的な出来事といえよう。そしてヨハネはこの出来事をイエスの転機的な出来事と見たのである。わたしはすでに栄光を現した。わたしは再び栄光を現そう イエスの十字架への道が、神の定められた道であり、神のみこころにかなう道であることを表している。

参考図書 A. T. Robertson 「Word Pictures in the New Testament」(Broadman) / ビ・エフ・バックストン「ヨハネ傳講義」(バックストン記念靈交会) 他

聖書

ヨハネ13：1～15

タイトル

洗足の恵み

暗唱聖句

わたしがあなたを洗わなければ、あなた
はわたしと関係ないことになります。

ヨハネ13：8

目 標

十字架による罪の赦しの恵みに生きる者
となる。

導入

(今田雅子)

ある時、2歳の子どもを育てているお母さんからこんなことを聞きました。「外から帰って来たらこの子の足を必ず洗うか拭くかします。それから家の中に入らせるのです」その子は、裸足であちこち歩いてたので、足が汚れていたのです。皆さんは、そんなこと無かったですか？

弟子たちの足を洗われたイエス様

イエス様がもうすぐ十字架に架かれるという時のこと。その日もイエス様は、弟子たちと一緒に夕食会に出しておられました。それは凄く大切な食事会だったのです。その時に突然、イエス様は夕食の席から立ち上がり、上着を脱ぎ、手ぬぐい（タオル）を取って腰に巻き、た

らい（大きな洗面器のようなもの）に水を入れて、弟子たちの足を洗い、腰に巻いていた手ぬぐいで拭き始められたのです。弟子たちはどうしてイエス様がそんなことをするのかと、言葉も出ないほど驚いたと思います。何故かという、その当時、この足を洗う役目は、実は奴隸（召使いのような人）の仕事で、その家でいちばん低い下の身分の人がする仕事だったからです。

皆さん、校庭や砂場を、裸足でサンダルやスリッパを履いて歩いたらどうなるでしょうか。土や砂ほこりが一杯ついて足は汚れますよね。その当時の道は、土でした。そこを裸足でサンダルを履いて歩いた弟子たちの足は凄く汚かったでしょう。でもイエス様はこのとき弟子たち一人一人の足を丁寧に洗われたのです。ペテロの番になった時、ペテロは「主よ、あなたが私の足を洗ってくださいますのですか？」と聞きました。イエス様は「わたしがしていることは、今は分らなくても、後で分かるようになります。」と答えられました。すると、ペテロは「イエス様！ 絶対に、私の足を洗わないでください！」と言いました。ペテロがそう言うのは当然「イエス様、あなたは私たちの先生、その先生に足を洗ってもらうなんて、

とんでもない」と。するとイエス様は「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになりません。」と答えられたのです。「わたしと関係ないこととなる」って、何故そんなことを言われたのでしょうか。

イエス様が弟子たちの足を洗うことは、これから十字架に架かって、全世界の人たちの罪を背負って血を流し、死ぬことを意味していました。イエス様は罪の全然ないお方、でも罪人となって、十字架でのちを投げ出してくださいました。それは、私たち人間の中にあるどうすることもできない罪を洗いきよめる為、赦す為に、十字架刑という痛くて苦しい刑罰を受けてくださったのです。そのことによって私たちは罪の滅びの中から救われ、赦され、きよめられたのです。

お互いに足を洗い合おう

イエス様は弟子たちの足を洗われた後、彼らに「主であり、師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのであれば、あなたがたもまた、互いに足を洗い合わなければなりません。」と言われました。

皆さん！ お互いに足を洗い合うってどんなことだと思いますか？

学校や塾で「誰が一番か？」って、競争することがあると思います。他の人より自分が、早かったり、よく出来たりすることもあるでしょう。その時に自分が他の人より偉いと思ったり、遅い人、出来ない人をばかにしたりするのなら、イエス様のお姿とはちよつと違うよね。もちろんかけっこや勉強を頑張るのは大切なことだけだね。お互いに足を洗い合うとは、心を低くして周りのお友だちのお手伝いをする事。寂しくしてる人、困っている人に「どうしたの？」って、声をかけたり、お友だちと助け合ったり、協力し合ったりすることなんですよ。そのことをイエス様ご自身が手で触って分かるように、身をもって教えてくださったんですね。

まとめ

私たちも、イエス様の十字架をいつも忘れないで、心の中をイエス様の愛で一杯にしたいだいて、周りの家族やお友だちのお手伝いをしていきましょう。「自分出来るかな？」って思うかも知れません。でも、大丈夫！お祈りすれば、イエス様の力によって出来るようにしてくださいませよ！

♪イエス、イエス♪ (こ改125)

聖書 ヨハネ13・1～15 テーマ 洗足の恵み

序論

(石田高保)

洗足の出来事を通して、人の成長のために仕える人が、人の上に立つのにふさわしく、影響力のある人物となることを教えられます。

一、イエス様に足を洗っていただく

イエス様のし始めたことを見て、弟子たちはみな啞然あはとしました。なぜなら上着を脱いで手ぬぐいを取って腰に巻き、水をたらいに入れて人の足を洗い、それを手ぬぐいで拭いたからです。それは奴隷のする仕事であって、決して自由人、まして教師のする事ではなかったからです。ペテロをはじめ弟子たちはどんなにか戸惑い、畏れ多く感じたことか想像に難くありません。

なぜイエス様はこのような度肝を抜くことをされたのでしょうか。いわゆる洗足の出来事は、14節に記されているように、弟子たちに互いに足を洗い合うべきことを教えた「手本」実物教訓というだけではないようです。それならば最後の晩餐まで待つことなく、もっと前に弟

子の足を洗ってもよかったです。十字架の前夜にこのことをされたのは、これから流すイエス様の血が、弟子たちの、そして全人類の罪を洗いきよめる力のあることを示すためだったからです。

まずイエス様には、ご自分の死が近づいていること、いよいよ十字架にかかって救いの道を開く時の間近なことがわかっていました。〈この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たことを知っておられた〉。奴隷の格好をし、その仕事をする事によって、ご自分が究極の奴隷であることを示そうとしました。それはご自分の罪のない命を差し出すことによって、人類に救いの道を開く姿です。〈彼らを最後まで(徹底的に)愛された〉、十字架を暗示する究極の愛を示されました。神に認めていただくために私たちのできることは何一つありません。

弟子たちはすでに救われていた人たちでした。けれどもイエス様はあえて弟子たちの足を洗っておられます。それならば足を洗っていただかなくてもいいようなものですが、〈水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身がきよいのです〉、弟子たちに対して全身がきれいだと言っているのは、すでに救われていることを意味しま

す。また洗礼を受けることによって救いの確信が与えられていることもです。この当時、人の家に食事に招かれると、全身を洗ってから出かけました。しかし足だけはよごれるので、玄関で奴隷に洗ってもらいました。私たちも全身ではなく足だけはイエス様に洗っていただく必要があります。日々さまざまな汚れを受けており、生活の中でいろいろと罪も犯します。しかしその汚れや罪は、そのたびごとに悔い改めれば、イエス様の血によって洗いよめていただけます。「御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます」(Iヨハネ1・7)。

二、互いに足を洗い合う

イエス様に罪を赦(ゆる)ましていただいた人は、イエス様によって日々足を洗っていたことができず。罪や汚れをきよめ続けていただけなのです。しかし今度は私たちがお互いに足を洗い合う番です。へわたりがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、あなたがたに模範を示したのです。このあと弟子たちがお互いの足を洗い合ったとか、初代教会で洗足の儀式が始まったという記事は聖書にありませんが、彼らには鮮烈な記憶として残ったはず。そしてお互いの間にやっかみや、

いがみ合いや、さばく思いが起きたとき、この出来事を思い出せば悔い改め、へりくだって隣りに仕えて行ったことでしょう。そして歴代の教会では繰り返し説教で語られたに違いありません。特にこの箇所は語られるだけでなく、神の家族の中で実践される必要があります。

この出来事ほど、イエス様が説き、実践されたリーダーシップが記されたものはないでしょう。「あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、皆に仕える者になりなさい。あなたがたの間で先頭に立ちたいと思う者は、皆のしもべになりなさい。人の子も、仕えられるためではなく仕えるために…来たのです」(マルコ10・43〜45)。

結論

人間は普通、何とかして人の上に立とう、人を動かそう、支配しようと思うものです。しかし神の国の価値観はより良く人に仕える人が偉い人です。私たちも身の周りの人が、イエス様とつながって自立し、成長できるように仕えるのです。また人の足を洗うとは、その人の間違いや弱さや罪をカバーしてあげることでもあります。これは特に家族の間が必要です。さて、あなたは誰の足を洗おうと決心するでしょうか。

研究資料

(宮澤清志)

テキストト

1 この節は、13章以下の受難物語全体の序文と見ることができ、**過越の祭り** ユダヤ人の三大祭りのひとつで、旧約聖書の出エジプトを記念して守った。神の救いの恵みのしるしとして行う重要な祭りであった。この日には、一歳の雄の小羊をほふり、その血を入口の柱と鴨居に塗り、肉を過越の小羊として食べた。この過越の小羊はキリストの型であり(ヨハネ1・29)、またこの祭りは多くの人々がエルサレムに足を運ぶ祭りでもあったことから、神はこの日をあえて選ばれてキリストの十字架の「時」(1)としたのであろう。**この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時** ヨハネにとって「死」とは、こ

の地上での働きを終えて「父の家」に行く、という「旅」であり、我が家へと帰ることなのである。**世に在るご自分の者たち** イエスを受け入れた、少数の信者の群れ、すなわち教会(エペソ5・25)。**最後まで愛された** 最後までという言葉は「極限まで」という意味と、「最後まで」という意味がある。新改訳第二版では前者が、口語訳や

新改訳2017では後者の意味が強く響く。

2 ここからが洗足物語の序論となる。

4〜5 この4節から、イエスの洗足物語の本題へと入っていく。この個所では、イエスの洗足の情景を詳しく描写する。洗足は、古代では一般に奴隷の仕事とされてきた。しかも、イスラエルでは異教徒の奴隷にしかさせなかつた仕事である。

6〜7 イエスの洗足が進み、いよいよその順番がペテロにくる。そのペテロが当然の疑問をイエスにぶつける。主よ、**あなたが私の足を洗ってくださいるので**かここでは「あなた」と「私」が強調されている。「あなたのようなお方が」「私のような者の」足をお洗になるのですか、というような意味であろう。このみ言葉は、古来より多くのキリスト者が理解できない事柄について、解決の鍵を与えてきた言葉である。神の永遠のご計画、神が私たちに求めておられる意図は、聖霊を通してできれば私たちが知ることはできないのである。同時にそれらを私たちが知ることは、神の「時」があるのである。**後で** 真理の御霊(ヨハネ16・13)である聖霊の到来の後、という意味。

8 ペテロの次なる問い。ここでもやはり「私の」が強調され、「他の弟子たちの足はお洗いになっても、このわたしの足だけは…」というような意味になる。**わたしがあなたを洗わなければ…** このイエスの行為は、人間的な愛の行為ではなく、人となられた神の子としての奉仕なのである。この行為を頑として退けようとするペテロの行為は、イエスの差し出しおられる愛の手そのものを退け、彼の救いそのものを拒否したのである。

9～10 ペテロはまだ、イエスの洗足が全身をきよくする象徴としての行為であることを悟っていなかった。だからひとたびイエスの救いに与り、その汚れを洗いきよめていただいた者は、全身がきよいのであって、今さら手や頭まで個別に洗う必要はない、というのである。

11 10節後半からは、イスカリオテのユダに関する言及がなされる。イエスはユダの裏切りを既に予見した上でこの言葉を語っている。では、私たちはこのイエスの言葉をどのように理解すべきであろうか。10節後半の言葉は、イエスのユダに対する愛と、ユダに対する救いの道、そして何よりユダへの悔い改めの機会を与えた言葉であろうと思う。しかし、ユダは自らその道を閉ざしてし

まったのである。

12～15 12節以下は、イエスの洗足についての説話的部分である。「先生」「主」とは、単にユダヤ人の呼称というよりも、イエスへの神的告白であろう。「師」「主」であるお方から最高の愛の奉仕を受けたしもべであるキリスト者は、同じ仲間であるしもべたちを愛する責任がある、というのである。キリスト教倫理の中心は、キリストご自身の模範に生きることである。「わたし(主)があなたがたにしたこと」(12)を悟り、「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようになり」というイエスの「模範」(15)に従って歩むことが、キリストのしもべとして生きる者の道であるというのである。

参考図書 A. T. Robertson 「Word Pictures in the New

「Testament」(Broadman)、ビ・エフ・バックストン「ヨハネ傳講義」(バックストン記念靈交会)、ジョン・C・ライル「ライル福音書講解 ヨハネ」(聖書図書刊行会) 他

聖書

タイトル

暗唱聖句

目 標

ヨハネ14・27、31
キリストにある平安

わたしはあなたがたに平安を残します。

わたしの平安を与えます。ヨハネ14・27

どんな状況の中でもキリストからの平安
を持つて生きる。

導入

(後藤 真)

きょうは「平安」の話をします。みなさんは「平安」ということがわかりますか？ ふだんあまり聞かない難しいことばですね。学校で歴史の勉強をした人は「平安時代」ということばを習ったでしょう。平安というのは心が無事で穏やかな様子のことです。

けれども、聖書に出てくる「平安」にはもう少し深い意味があります。聖書に出てくる「平安」には平和、心や体が元気なこと、栄えていること、などたくさん意味があります。その中できょうお話しする「平安」は、神様の思いに従おうとするとき、まわりから苦しめられるとき、いちばん心配なときに、イエス様がいっしょにいてくださることでです。

十字架の前に

イエス様はもうすぐ十字架にかかることがわかっていました。イスカリオテのユダが裏切ったこともわかっていました。でも、イエス様は逃げないで十字架にかかることを決心していました。もうすぐイエス様は弟子たちの前からいなくなります。そのイエス様は弟子たちに大切な話をたくさんしました。その中で、「心を騒がせてはいけません。神様を信じ、わたしを信じなさい」と弟子たちを励ました。

またイエス様は自分がいなくなっても、助け主である聖霊を送ってくださいることも約束してくださいました。聖霊は、イエス様のことばを思い起こさせ、すべてのことを弟子たちに教えてくださるのです。

イエス様がいなくなる

弟子たちはイエス様の語ることばがすべて分かったわけではありませんでした。イエス様が十字架にかかるということもまだよく受け止められていなかったでしょう。けれども、イエス様がいなくなるかもしれないということはなんとなく感じていたでしょう。

みなさんが弟子だったらどうですか。今までは、病氣

3月

19日 礼拝メッセージ例

の人がいても、イエス様が治してくださいました。悪霊に取りつかれた人がいても、イエス様が悪霊を追い出してくださいました。

湖が嵐になって、乗っている舟が沈みそうになったときも、イエス様が助けてくださいました。五千人よりたくさんの人たちにパンを分けたこともありました。イエス様に、文句を言って議論してくるパリサイ人たちにもイエス様が答えてくださいました。

ぜんぶイエス様がしてくださいましたのです。弟子たちができることなんて何もありませんでした。そのイエス様がいなくなるのです。弟子たちにとって、これよりも大きな心配はなかったのです。

平安を残して

イエス様はそんな弟子たちの心配をすべてご存じでした。みなさんはどうですか。とても心配してドキドキしているとき、人から「大丈夫だよ」「何とかなるよ」と励ましてもらっても、少しも心配がなくならなかったという経験はありませんか。弟子たちにも、そのようなこの世が与える励ましは役に立たなかったのです。

イエス様は、そんな弟子たちにイエス様の平安を残し

ていくとはつきり言いました。イエス様は、いちどは父である神様のもとに行くけれども、もういちど来てくださると約束してくださいました。そして、イエス様の代わりに助け主、聖霊が来てくださることで、弟子たちにイエス様の平安を与えてくださるのです。聖霊がともいてくださることは、イエス様がいっしょにいてくださるのと同じことでした。

わたしたち一人ひとりをいちばんよく知っていて、いちばん愛してくださいさるイエス様が、いっしょにいてくださるのが本当の平安です。わたしたちは神様もイエス様も目で見えることはできません。でも、イエス様がいっしょにいてくださることを信じています。

心配になることもあるでしょう。心が騒いでしまうこともときどきあるでしょう。それは悪いことではありません。大切なことは、そんなときこそイエス様がいっしょにいてくださることを思い出し、イエス様に心を打ち明けてお祈りし、イエス様の平安をいただくことなのです。

♪ゆだねますあなたに♪ (PW47)

聖書 ヨハネ14・27〜31 テーマ キリストにある平安

序論

(石田高保)

台湾のクリスチャンの挨拶は平安(ピンアン)。イスラエルでの挨拶は「シャールーム」(平安)。この国は常時戦時体制の中なので、平安、平和という言葉は切実に響きます。私たちも自分の心には平安を、そして人との間には平和を心から願うのではないでしょうか。

一、神との平和による平安

イエス様が天に帰ってしまったら、弟子たちは拠り所を失って、誰に頼ったらよいかわからなくなってしまうことを見越して主は「わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません」と約束します(18)。彼らが最も必要としていたのは、心の平安です。そんな彼らに主は、「わたしはあなたがたに平安を残します。わたしの平安を与えます」と遺言されます。主が弟子たちに残された遺産の一つは、「わたしの平安」です。この平安は世が与えるようなものとは異なるものです。世が与える平安とは、順調な仕事、良い評価、良い成績、健康、家庭円満、財

産、など。しかしこれらによって支えられる平安は危ういもので、一つ欠ければすぐに失われてしまいます。しかしイエス様の与える平安は、私たちの心を揺るがす出来事が起きても、決して揺るぎません。太平洋を進む船が台風に遭遇すると山のような大波に揉まれて、生きた心地がしないそうです。しかし海面から20メートル下は、いつもどおりの静かな海だといえます。

二、平安を持つためには

ではどうしたらこのキリストの平安を身につけることができるのでしょうか。第一は、神様と正しい関係を持つことによります。人間が不安に悩まされるのは、そもそも神から離れているからです。「私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています」(ローマ5・1)、主の十字架によって勝ち取られた平和・平安です。人間の恐れの本質は、罪深いために、聖い神の前に立てず、さばかれ、永遠の死に定められていることを潜在的に知っている所にあります。しかしイエス様を受け入れることによってそこから救われ、神様との間に何のやましいこともなくなり、神の子として受け入れられ、永遠の

命にあずかります。それほど親しい間柄だからこそ、日々の悔い改めによって神との関係を正しくし、平安をいただくことができます。

第二は、〈助け主…聖霊〉を心に迎えることによります。聖霊は助け主・パートナーとして、私たちと一緒に働いてください。私たちのほうは聖霊に自分の身を委ねるのです。聖霊が私たちの霊をキリストの平安によって防弾チョッキのように防衛していて下さいます。「志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちを守られます。その人があなたに信頼しているからです」(イザヤ26・3)。イエス様の懐に飛び込んで、後はよろしくお願いしますと委ねれば、主の平安によって覆われるのです。また「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあつて守ってください」(ピリピ4・6、7)、ですから私たちは自分に向かって言ってみましょう。「心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません」と。み言葉を口にすると、そこに助け主なる聖霊が働いて、

イエス様からの語り掛けとなり、私たちの霊が強められます。さて、いま思い煩っていることがありますか。どうしたら主の平安を回復できるでしょうか。

三、人との平和をもたらす平安

私たちの内にキリストの平安があると、人との間にも平和を造るようになります。私たちの信仰はそもそも、個人の安心立命のためだけにあるのではないからです。内なる平安が外に向かうと平和になると言われます。周りの人々にイエス様の平安をお分ちすることができ、外に向かい、人のために役立つ平安です。「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです」(マタイ5・9)、クリスチャンはピースメーカーです。馬が合うとか合わないでぶつかりやすい関係の中に、イエス様の平安を持つクリスチャンがいることによって、その場が和らぐことがあります。知らぬうちに平安の出前をしているわけです。助け主である聖霊が私たちと一緒に働いてくださるからです。

結論

ぜひ、人から相談されやすい存在となりましょう。さでどのように平和をつくり出したいと思えますか。

研究資料

(辻林和己)

ヨハネ13章から17章まで、「最後の晩餐」の席上とその後でなされた主イエスの弟子たちに対する告別の説教が記されている。14章では、主が地上を去る日の近いことを聞かされて動揺する弟子たちに主が「…心を騒がせてはなりません」(1)と命じられ、ご自身が父なる神への道であることを語られる。さらに、主イエスの言葉を弟子たちに思い起こさせる助け主(聖霊)の派遣を約束された(26)。今回の個所では、主イエスはご自身が世を去るに当たって弟子たちに「平安」を与える約束の言葉を語られる。

テキスト

27 わたしはあなたがたに平安を残します 「平安」(ギリシヤ語では「シャローム」)。「シャローム」はユダヤ人の間では日常の挨拶でも使われる言葉である。ユダヤ人は何よりも望ましい幸いな状態、神の祝福を受けて互いに喜び合える状態を「シャローム」と呼んだ。主イエスがここで実際に使われた言葉も「シャ

ローム」である。そしてこれはキリストによってなされる救いの結果、弟子たちに与えられる真の平安であるから主はそれを「わたしの平安」と言われる。それは世が与える平安とは違うことを強調される。心を騒がせてはなりません 14・1と同じ言葉をもう一度繰り返される。

28 わたしは去って行くが、…戻って来る 14・3、18 参照。わたしが父のもとに行くことを、あなたがたは喜ばずです 27節の平安と共にここでは喜びが語られる。十字架の死と復活の後、主イエスが父なる神のみもとに行かれることは、弟子たちにとって大きな喜びとなる。父はわたしよりも偉大な方だからです かつて「わたしと父とは一つです」(ヨハネ10・30)と言われた主がここではこう語られる。御子の派遣も、御子の帰還も、一切は父なる神のみ心と御計画の中にあるからである。人となられ、僕のかたちをとられた神の子の今の姿を父なる神と比較して語られた言葉でもある。

29 **それが起こる前に** 13・19参照。主イエスが十字架で死なれるとき。このことが起こるに先立って、主は弟子たちに語られ、そのときの悲しみと苦しみに耐えることができる希望を与えようされる。**それが起こったとき**

主が復活され、父のみもとに帰られるとき。

30 多くを話しません。主が語っておられる間にも、危機は刻々と迫っていた。「この世を支配する者 サタン（悪魔）」のこと。サタンが主イエスに最後の攻撃を仕掛けようとしている。

31 それは、わたしが父を愛していて、父が命じられたとおりに行っていることを、世が知るためです。父なる神を愛し、従順に歩まれる主イエスに対してサタンは何の力もない。立ちなさい。さあ、ここから行くのです。一同が晚餐の部屋（二階の広間）から、この後すぐに出て行ったとすると、15〜17章は、ゲツセマネへの途中で語られたことになる。一方、この言葉の後も、すぐに出かけないで同じ部屋で主が弟子たちに語り続けられたとする説もある。また「さあ、行くのです」と訳されている言葉（ギ）アゴーメンには、「近づく敵を迎え撃とう」、「（サタンに）立ち向かおう」という意味があるとして、主イエスが、今、悪魔に立ち向かい、その死に向かつて進もうと言われたとする説もある。

主が去って行かれると聞き、「心を騒がせ、ひるんでしまふ」弟子たちに、主が残そうとされたのは、不安や恐

れに打ち勝つ「平安」であった。ヨハネの福音書では、27節と同じ意味で、この語がもう一度、16・33で用いられる。そのあとは、復活のキリストにより、「平安が…あるように」と語られる（20・19、21、26）。このように主イエスが約束された「平安」が完全に弟子たちに与えられるのは、主がサタンに打ち勝たれ、十字架と復活の出来事によって、ご自身の愛を究極的に現されるときである。

私たちも、主イエスを信じ、心に受け入れるとき、聖霊が内に住んで下さり、御霊の実として「平安」が与えられる（ガラテヤ5・22）。ここで「平安」と訳されている言葉の原語も、27節と同じ（ギ）エイレネー）である。主が与えて下さる喜びと同様、キリストの平安は、誰も取り去ることはできない（ヨハネ16・22）。

参考図書 村瀬俊夫「ヨハネの福音書」『新聖書注解』（いのちのことば社）、榎原康夫「ヨハネ福音書講解」（小峯書店）他

聖書 ヨハネ15・12～17

タイトル 最大の愛

暗唱聖句 人が自分の友のためにいのちを捨てるこ

と、これよりも大きな愛はだれも持って
いません。

ヨハネ15・13

目標 十字架に示されたキリストの愛を知り、

その愛に生きる。

導入

(後藤 真)

わたしたちはいま「受難節」の中にあります。受難節とは、イエス様が十字架で苦しんだことを思い出し、イエス様の十字架に見習う生活をする季節です。四月九日の復活節（イースター）までのひととき、自分自身の生活をよく見直し、イエス様に喜ばれることができているかどうかを考えることが大切です。

今日は先週に続いて、十字架にかかる前にイエス様が弟子たちにお話しした大切なことから学びます。それは弟子たちが互いに愛し合うことです。

最高の愛

「互いに愛し合いなさい」。そうイエス様に言われた

弟子たちはきつとドキッとしたでしょう。なぜかと言うと、弟子たちはいつもだれが弟子たちの中でいちばん偉いのかを言い争っていたからです。弟子たちは愛し合うよりも競争し合っていました。でもイエス様は先に弟子たちを愛してくださいました。だから、「わたしがあなたを愛したように」そのまねをして、愛し合いなさいと弟子たちに言ったのです。

ではイエス様はどんなふうに関心を持って愛してくださったのでしょうか。まず、イエス様は弟子たちといつもいっしょにいてくださいました。また弟子たちに大切なことを教えました。イエス様は弟子たちのことを「しもべではなく友だ」と言われます。それで、弟子たちに命令して従わせるのではなく、弟子たちを信じて任せ、心の中を打ち明けたのです。それは弟子たちを信頼していたからです。

また、イエス様は、弟子たちの足を洗いました。それはイエス様がしもべのように弟子たちに仕える姿でした。これだけでも驚くことですが、イエス様の愛はそれでは終わりませんでした。「人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持ってい

ません」とイエス様は言われました。そしてそのことばどおり、この後十字架にかかりました。それは友と呼ぶ弟子たちのため、そしてわたしたちのためでした。

選ばれた弟子たち

弟子たちが立派だからイエス様は弟子たちのことを選んで愛したのでしょうか。そうではありません。弟子たちにはだめなところがたくさんありました。イエス様を信じきれないときもありました。でも、イエス様はそんな弟子を選んで愛して、愛の実を結ぶように、弟子たちを任命したのです。

弟子たちに任された仕事は、イエス様から愛された愛で、周りの人たちを愛すること。イエス様に愛された愛で愛し、しもべのように仕えること。そして、弟子たちに愛された人たちがまたイエス様の愛で他の人を愛するようになること。そうやって、世界中に愛の実が残っていくことをイエス様は願っているのです。

いのちを捨てる

どうすればイエス様の真似ができるのでしょうか。わたしたちはみんな十字架にかかったり、自分のいのちを捨ててだれかを助けたりしなければならぬのです。

か。イエス様のことばをそんなふうには受け止めるなら、とても難しく、だれにもできないということになります。

でもいのちを捨てるというのは死ぬという意味だけではなく、自分の時間や力を自分のためではなく、他の人のために使うことも自分のいのちを捨てることになるのです。

さびしがっている人の友だちになったり、困っている人を手伝ったり、悩んでいる人の話を聞いたりすることもイエス様の愛の真似をすることになります。愛するというのは「気持ち」や「心」ではなく、行いに現れます。「互いに愛し合いなさい」というイエス様のことばは、まず弟子たちの間で、教会の中で、愛し合いなさいということです。わたしたちが互いに愛し合った愛で、家族や友だちを愛することができたらもっと素晴らしいことです。それが友のためにいのちを捨てる愛の第一歩です。

♪互いに愛し合い♪ (リビングプレイズⅡ 39)

聖書 ヨハネ15・12〜17 テーマ 最大の愛

序論

(石田高保)

驚くべきことに、神様は私たちと親しい友人になりたいと願っておられます。人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていない。わたしが命じることを行うなら、あなたがたはわたしの友です。主はご自分の命を十字架に投げ出すことによって、私たちをどれほど愛しているか、どれほど大切に思っているかを示して下さいました。神に愛されていない人は、この世界に一人もいません。神様との関係を表現する言葉として馴染み深いのは、父と子、主人と僕、羊飼いと羊などではないでしょうか。しかしイエス様は「わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました」、天地万物を創造した全知全能の父なる神様が、私たちのレベルまで降りて来られ、何もかも話し合える親友になって下さるとは、誰が想像できたでしょうか。アブラハムやモー

セは「神の友」と呼ばれ、エノク、ノア、ダビデ、ヨブも神様と親しく歩きました。今、私たちも神様との友情を深めることができます。ではそのためには：

一、神様と会話の祈りをする

私たちはいつでも、どこでも、神様に呼びかけ、語りかけることができます。「絶えず祈りなさい」とはそのことを言っています。もちろん神様と二人だけになって聖書を読んで祈る習慣は身につけたいものです。神様もその時間を楽しみにしておられます。私たちと一日中、一緒に過ごしたいと願っておられます。ユダヤ人は一日3回祈るようですが、クリスチャンは「絶えず祈れ」です。ですから一日中です。何をしていても、その場に神をお招きし、その臨在を意識することです。Iコリント10・31「あなたがたは、食べるにも飲むにも、何をするにも、すべて神の栄光を現すためにしなさい」、仕事に没頭している時でも、勉強している時でも、車を運転している時でも、買い物をしている時でも、家事をしている時でも、趣味に打ち込んでいる時でも、折に触れて「神様！」と呼びかけるなら、そこで神様と一緒に過ごすことになり、ぜび、打ち解けた短い会話のような祈りをしてみ

てください。「わたしと共にいてくださって、ありがとうございます」「ありがとうございます」「あなたはわたしの主です。わたしはあなたのものです」「これから出かれますが、一つよろしくお願います」「わたしを悪魔の誘惑攻撃から守ってください」「主よ、あなたを信じます」など。さて、絶えず祈るために、できることはどんなことでしょうか。

二、み言葉を思いめぐらせる

神様は私たちの友として、ご自分がどれほど私たちを愛しているか、どんなに恵み深いかを教えたいと願っておられます。また神様は私たちに賢く生きるための知恵を与えたいと願っておられます。それは聖書の言葉を通してです。

かつて神はアブラハムに、ソドムとゴモラにさばきを下さなければならぬことを伝えました。「わたしは、自分がしようとしていることを、アブラハムに隠しておくべきだろうか」(創世記18・17)。また神は預言者エリミヤに、国の将来に起きる出来事を教えてくださいと祈るように言われました。「わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、あなたが知らない理解を超えた大いなることを、あなたに告げよう」(エレミヤ33・3)。

神様が個人の未来に関すること教えることはありませんが、人類のおおよその未来については、黙示録に啓示しています。しかし実際のなところとしては、日常生活の中で、どのように人と関わったらいいか、さまざま課題にどう取り組んでいったらよいかという知恵を必要としています。それを神様はみ言葉を通して教えようとしておられるのです。私たちがみ言葉を思いめぐらす習慣を身につけると、神はその知恵を認識できるようになります。折にふれて気づきが与えられるようになります。人との関わりにおいて、タイミングを外すことが少なくなりません。そもそも私たちが神から選ばれたのも、私たちがとおして神の栄光が現されるためです。(あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです)。

結論

主日の礼拝で開かれたみ言葉を一週間かけて覚え、折にふれて思いめぐらしましょう。また自分自身と生活に当てはめてみましょう。それを信仰の友との間で分かち合ってみましょう。さて、折にふれてみ言葉を思いめぐらすために、どのような工夫ができるでしょうか。

研究資料

(小平徳行)

ここにはキリスト者相互の関係について記されている。キリストのうちにとどまり、キリストがご内住下さるならば、互いに愛し合うように導かれる。

テキスト

12 **これがわたしの戒めです** 10節の戒めがここで取り上げられ、明確にされている。主の愛のうちにとどまるために、また主にとどまり続けるために必要なことは、主の戒めを守ることである。その戒めの第一のものが、互いに愛し合うことであった。**わたしがあなたがたを愛したように** 主の愛は、私たちが互いに愛し合うことの根拠であり、その力の源泉であり、その愛の模範である。キリストは、私たちがまだ罪人であった時に、また私たちが敵であった時に、愛して下さった(ローマ5・8、10)。

13 この言葉は一般的なことわざではなく、12節の主の愛の説明であり、十字架の愛をさしている。これよりも**大きな愛はだれも持っていません**。これが最大の愛として、互いに愛することの最高のあり方、愛のモデルを示

している。いのちを捨てる これは殉教の死を遂げることや、身代わりに死ぬという意味においてのみ理解する必要はない。**捨てる**(ギ)ティセーミ)は「投げ出す、差し出して提供する」などの意味があり、自分の命を自分のだけのためにではなく、隣人にささげられたものとして生きていくことが含まれている。

14 **わたしが命じることを行うなら、あなたがたはわたしの友です** ここには主の友であることがいかにして実現されるかが語られている。友であることは主の命じることを行うことにおいて遂行される。神はアブラハムを「わが友」と呼んだ(ヤコブ2・23)。アブラハムは友として神と交わりをもつただけでなく、ひとり子イサクをささげよとの命令でさえも従った。友(ギ)フィロス)は愛する(ギ)フィレオー)から来ている。ゆえに主が「友」と言う時、「愛される人々」と言う意味が込められている。また、本節と14・15、21と比べると、友となることと愛することとは同義であることが分かる。

15 **わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです** 当時、主人がしもべに何かを相談することはなく、しもべ

は自らにゆだねられている働きがどのようなものであり、また何を目標としているのか、どのような意味があるのか知らずに、ただ主人の命じるままを行うことしかできなかった。しかし友であるとは、強制されてでも機械的でもなく、主のことばを悟り、喜んで行う者ということである。わたしはあなたがたを友と呼びました。神が私たちに近づき、引き寄せて下さらない限り、威光と尊厳に満ちておられる聖なる神に対して親しげに近づくことは本来でできることではない。したがって、主が私たちを友と呼んで下さることは、大きな恵みであり、そこに神のへりくだりと御愛とが現れている。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。弟子たちを友と呼んだ理由がここに挙げられている。主は最後の晩餐の席上で、その胸中を残りなく告げられた。神はアブラハムに対して、ご自身がなさろうとしておられることを前もって告げられた(創世記18・17)。またモーセに対しても、自分の友と語るように顔を合わせて語られた(出エジプト33・11)。主は私たちに「ご自身の深いみこころを知らせることができるような関わりを持つことを望んでおられる。

16 あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び 主との親しい交わりに導かれたのは、弟子たちが選び取った結果ではなく、主が弟子たちを選んで、その使命を託すべき器とされた結果である。救いはこの選びによるのであり、恵みの賜物である。あなたがたが行って実を結び 主を選んでくださった目的は、キリスト者が主の弟子として実を結ぶことである。その実の一つが、主がなされたように兄弟姉妹を愛することである。その実が残るようになるため 実の永続性は教会の永久的な性格を示唆している。あなたがたがわたしの名によって父に求めるものをすべて、父が与えてくださるようになるためです 私たちに豊かな実を結ばせて下さるのは神である。実を結ぶ事ができるのは、神が御子の名による祈りに答えて下さることによる。実を結ぶ生涯には深い祈りが伴う。

参考図書 村瀬俊夫「ヨハネの福音書」『新聖書註解・新約1』、B・F・バックストン『バックストン著作集第8巻 聖書講解Ⅳ―ヨハネ福音書講義下』(以上、いのちのことば社)、G・R・オデイ『NIB新約聖書注解5・ヨハネによる福音書』(ATD・NTD聖書注解刊行会)他。

牧羊ひろば



長崎めぐみ教会 教会学校

●はじめに

長崎めぐみ教会は、一九八六年四月21日の教会創立時から今まで遣わされました先生方を通して福音の種が子どもたちにまかれてきました。特にコロナ禍でも平日に宿題会や英会話教室、子どもクリスマス会が行われ、近所の子どものとの交わりを通して福音が継続して伝えられ、教会の存在が身近になっておりました。

●主日のCSの内容と年間行事

二〇二一年四月、私共が着任後少しして、牧師子弟2名で教会学校が再開されました。日曜日朝の九時半から1時間ほど、主に牧師夫人が導

きます。教会学校のプログラムは、①挨拶、②簡単な交わりの時間（紙芝居やゲーム、プレゼント作りなど）、③お祈り、④賛美、⑤主の祈り、⑥賛美、⑦聖書朗読（輪読の時もあり）、⑧み言葉暗唱、⑨フラッシュカードを使

いながらメッセージ、⑩クイズ（今日のお話の復習をかねて）、⑪み言葉暗唱、⑫賛美、⑬お祈り、⑭お知らせ、ですが、臨機応変に短縮する時もあります。教会行事に合流する事もあります。年に何回かは合同礼拝をします。

一年の年間行事としては、4月にCS進級式が

あり、礼拝の中で牧師が祝福の祈りを捧げ、子どもたちにプレゼントを渡します。教会の皆さんと一緒に子どもたちの成長を喜びました。5月は母の日記念プレゼント作りをしました。去年はクリアファイルにステンドグラス風シールを貼った物を、今年はフェルトのカーネーションと押し花の葉をプレゼントしました。6月は花の日に教会の玄関や壁に、子ども達が折り紙で作ったお花を飾りつけて華やかにしました。季節ごとに掲示板や壁



主日の教会学校風景



母の日記念プレゼント

を子どもたちと飾りました。父の日記念プレゼント作りでは、昨年はフェイクレザールの葉をつくり、今年は粘土で丸く土台をつくってタイルやビーズで飾り付けたペーパーウエイトを作りました。今年の九月には敬老感謝記念プレゼントとして、牛乳パックで壁掛けの小物入れを作り、中に貝殻を入れてプレゼントしました。

11月には合同礼拝の中で子ども祝福式の時があり、プレゼントを渡します。12月は子どもクリスマス会。二〇二〇年には野外駐車場にてサンタさんによる腹話術、プレゼント渡しが行われ、20名の子どもが参加されたこの事です。

その時々によってプログラムや行事に変動や課題はあ

りますが、子ども達への救霊の働きを継続できますようにと祈りつつ、子ども達の御霊の実の結実のため、できる事を、喜んで子ども達と行なって行けたらと思います。続いて覚えてお祈りいただけましたら幸いです。

(後藤栄子)



こども祝福式



2020年のこどもクリスマス会の様子

●二〇二一年のクリスマス関連行事

二〇二一年のクリスマス礼拝後の祝会では、コロナ対策の為、愛餐はせず、お菓子と文具の詰め合わせを小袋に入れて教会から子どもを含めた皆さんにプレゼントしました。これとは別に、礼拝後、残られる方で教会からのプレゼントをくじ引きしました。子ども達も楽しんでいました。

二〇二一年の子どもクリスマス会は、12月24日の午後、コロナ対策として、会堂駐車場にて30分以内で企画しました。その直前の数日間、私は子どもたちを迎える準備で手一杯だったため、栄子師とCS生徒とが近隣の帰宅途中の小学校の子ども達に約70枚程案内を配りました。配布枚数は少なかつたものの、神様が憐れんで子ども達をお送り下さって、子どもが17名も参加しました。当日は大分福音キリスト教会YouTube配信中の子ども達の賛美「クリスマスおめでとう」等を駐車場で流しながら子どもたちを迎えました。早くから来てくれた子たち向けに、待ち時間に栄子師がクリスマスの紙芝居をしたり、ゲームをしたりしました。しかし寒い上、小雨も降ってきたので風邪をひかせてはいけませんので、急遽

計画を変更し、換気をしながら、マスクをしていない子にはマスクを渡して、密を避けながら、会堂で待つてもらいました。雨は止まず、子どもたちはほとんどん集まっていますので、コロナ感染防止のため仕方なく計画変更。会堂内でいきなりサンタさんによるプレゼント（お菓子と文具とクリスマスストラクト）が渡された後、すぐ解散としました（クリスマスストラクトを読んで福音を信じてほしいと願いつつ）。クリスマス会直後、ご近所のご婦人が「孫がお世話になりました」とみかんとお芋等をたくさん下さいました。お正月には別のご近所のご夫妻が「息子が喜んでいました、ありがとうございます、今年もよろしくお願い致します」と教会そばの道端で向こう様からお声をかけて下さり感謝でした。

同日24日の夜7時から、コロナ対策をしつつ、キャンドルサーピスを1時間程お捧げしました。その礼拝に、メソジストの流れにあるミッションスクール、活水学院の学生さんが二〇二〇年のキャンドルサーピスにて、ろうそくの明かりの雰囲気良かった事もあり（ベラカ12月号のお証参照、夜にもかかわらず、二名も出席されました。この年も喜んで下さった様子で感謝でし

た。活水学院から地域のプロテスタント教会の礼拝を訪問する事を奨励されているのですが、その事も主がお用い下さり、中高生が礼拝に導かれて来る事は小さな群れにとって励ましであり喜びです。最近では、活水学院の指定する礼拝訪問日以外でも、ほぼ毎聖日、礼拝出席される高校生が起こされ感謝です。さらに近隣地域のプロテ



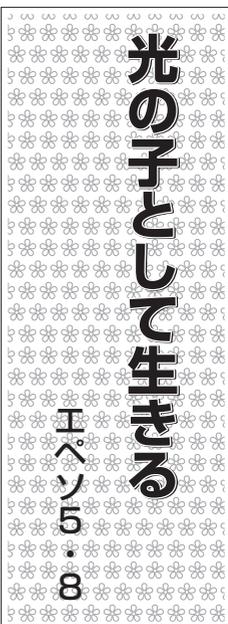
2021年キャンドルサービスの様子（学生は写っていません）

スタント教会の牧師という事もあって、私のような小さい者にも、時に活水学院や長崎外国語大学からチャペル（礼拝）の御用にお招きがあり、大勢の中高大学生たちにメッセージをする機会が与えられました。主の憐みと先輩クリスチャン達の主にある宣教の結実に畏れおののいております。

余談で私事ではありますが、最近、私（後藤健一）は小学校のPTAの関係で見守り隊に入りました。子ども達の登下校を見守る中で、先のクリスマス会に来てくれた子ども達の姿も見えます。見守り、挨拶していると親しみが増します。主イエス様は人間を救うために人間となつてこの世界に来て、人間を愛し仕えて下さった事を思う時、子ども達の救いを求める心で子ども達を見守る事で子どもや地域の方々にお仕える事は、決してやましい事ではないと確信できるようになりました。

この長崎の地からも、さらに救われる子どもたちが起こされ、キリストの弟子が起こされますように、続いて皆さまのお祈りのご支援をどうぞよろしくお願い致します。

（後藤健一）



● 新年

行事

テーマ

聖書

暗唱聖句

1月1日 新年

私の助けはどこから

詩篇121：1～8

同1、2節

● 新しい生き方

1月8日

キリストによる新創造

Ⅱコリント5：13～19

同17節

15日

神の子として

Iヨハネ5：1～5

同1節

22日

神の家族とともに

エペソ2：19～22

同19節

29日

愛によって

ヨハネ13：34～35

同34節

● 捕囚期

2月5日

ダニエル①
汚れから離れる

ダニエル1：8～16

同8節

12日

ダニエル②
三人の若者たち

ダニエル3：8～25

同18節

19日

ダニエル③
獅子の口からの守り

ダニエル6：1～24

同22節

26日

エステル

エステル4：1～17

同16節

● キリストの十字架への道

3月5日

一粒の麦として

ヨハネ12：20～28

同24節

12日

洗足の恵み

ヨハネ13：1～15

同8節

19日

キリストにある平安

ヨハネ14：27～31

同27節

26日

最大の愛

ヨハネ15：12～27

同13節

※二〇二二年度第Ⅲ巻の背表紙に間違いがありました。

「誤」二〇二二年 十月～二月

←「正」二〇二二年 十月～十二月

お詫びして訂正いたします。

『牧羊者』のご購読・ご利用について

* 分級用に、ワークA(幼稚科向け)、B(主に小学生1~3年生向け)、C(主に小学生4~6年生向け)を用意しています。また、付録として「子ども聖書日課」、「フラッシュカード」、「み言葉カード」、「中高科へのヒント」があります。いずれも、下記ホームページから無料でダウンロードできます。送付ご希望の方には、ワークは各600円+税でお送りします。
信徒局 教会教育室 ホームページ
<https://cs.jccj.info/>

* ご注文は、日本イエス・キリスト教団(事務局)まで。申込み、部数変更等のための用紙も、上記ホームページからダウンロードできます。
神戸市兵庫区塚本通3-3-19
電話 (078) 575-5511
FAX (078) 575-6611

おわりに

『牧羊者』二〇二二年度IV巻をお届けできますことを感謝します。また、執筆者のご労に感謝いたします。

巻頭言は灘教会の仁科早苗師が執筆してくださいました。教師養成講座は二〇〇五年度III巻に掲載された工藤弘雄師の原稿を一部編集して再掲させていただきました。「牧羊ひろば」では長崎めぐみ教会のCSを紹介していただきます。

今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

メッセー ジ例	土屋開夫師	飯田勝彦師	和田牧子師
聖書講 解	櫻井めぐみ師	今田雅子師	後藤真師
研究資 料	石田高保師	小泉創師	鎌野善三師
	高橋頼男師	大頭眞一師	鎌野善三師
	宮澤清志師	小平徳行師	金井由嗣師
	辻林和己師	井上義実師	加藤満師
ワーク (A) (B) (C)	中島啓一師	鎌野幸師	宇野真佑美師
	吉田美穂師	勝田幸恵師	三輪直子師
	石川剛士師	勝田幸恵師	三輪直子師
	竹崎光則師	勝田幸恵師	上森恭子師
	八幡直人師	石田高保師	三輪正見師
	後藤健一師	金田ゆり師	小野淳子師
中高科への ヒント	田中愛子師	柴田福音師	丹羽遥姉
子ども聖書 日課	後藤栄子師	柴田福音師	丹羽遥姉
フラッシュ カード	松浦あん姉	柴田福音師	丹羽遥姉
み言葉カード・ イラスト	松浦あん姉	柴田福音師	丹羽遥姉
ワープロ打 ち込み	中島啓一師	中島啓一師	
校正	後藤健一師	中島啓一師	

また、事務作業・発送の教団事務所の兄姉、組版の松木共栄印刷、印刷のプリントバックに心から感謝いたします。(中島啓一)

聖書教育教案誌 牧羊者 二〇二二年度 IV巻

二〇二三年一月一日発行

発行所 日本イエス・キリスト教団 信徒局 教会教育室
企画監修 日本イエス・キリスト教団 信徒局 教会教育室

神戸市兵庫区塚本通三-3-19
電話 (078) 575-5511
FAX (078) 575-6611

印刷所 株式会社プリントバック

* 聖書 新改訳2017 ©2017 新日本聖書刊行会 許諾番号 4-12-1750号